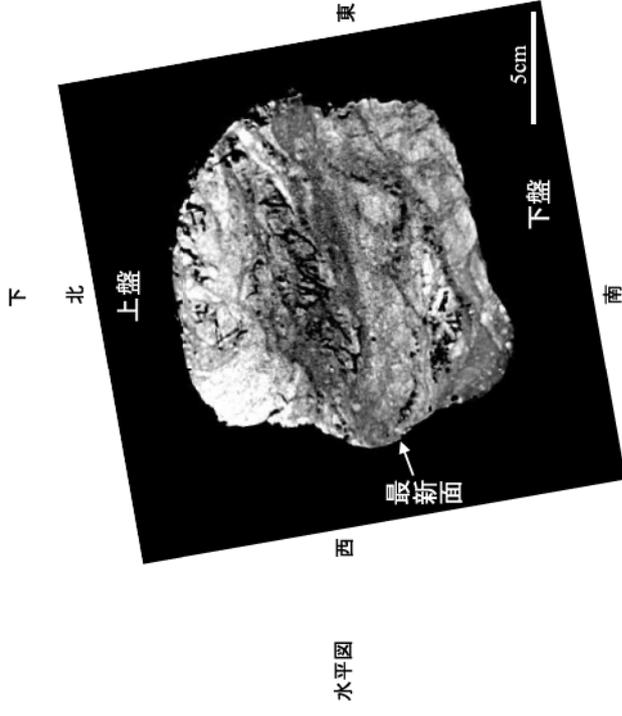


正面図



水平図

※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、
水平図は上方から下方に向けて撮影。

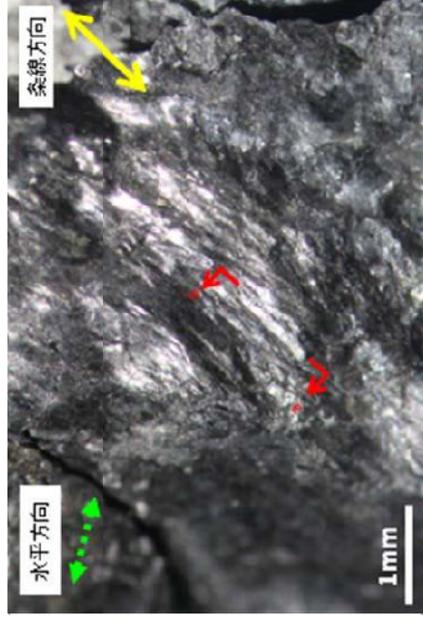
断層の走向傾斜: TN73E/48N (現場での計測データ)
縦ずれ成分: 逆断層、横ずれ成分: 左横ずれ

最新面はやや湾曲している。

最新面に沿う幅約 2cm 以下のゾーンで密度が低い (粘土状破砕部)。このゾーンは膨縮する。



CB-BI (下盤上面)

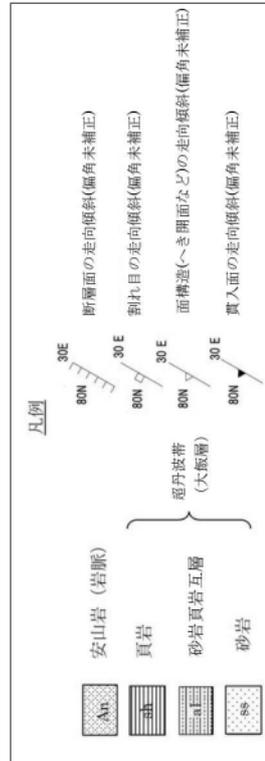
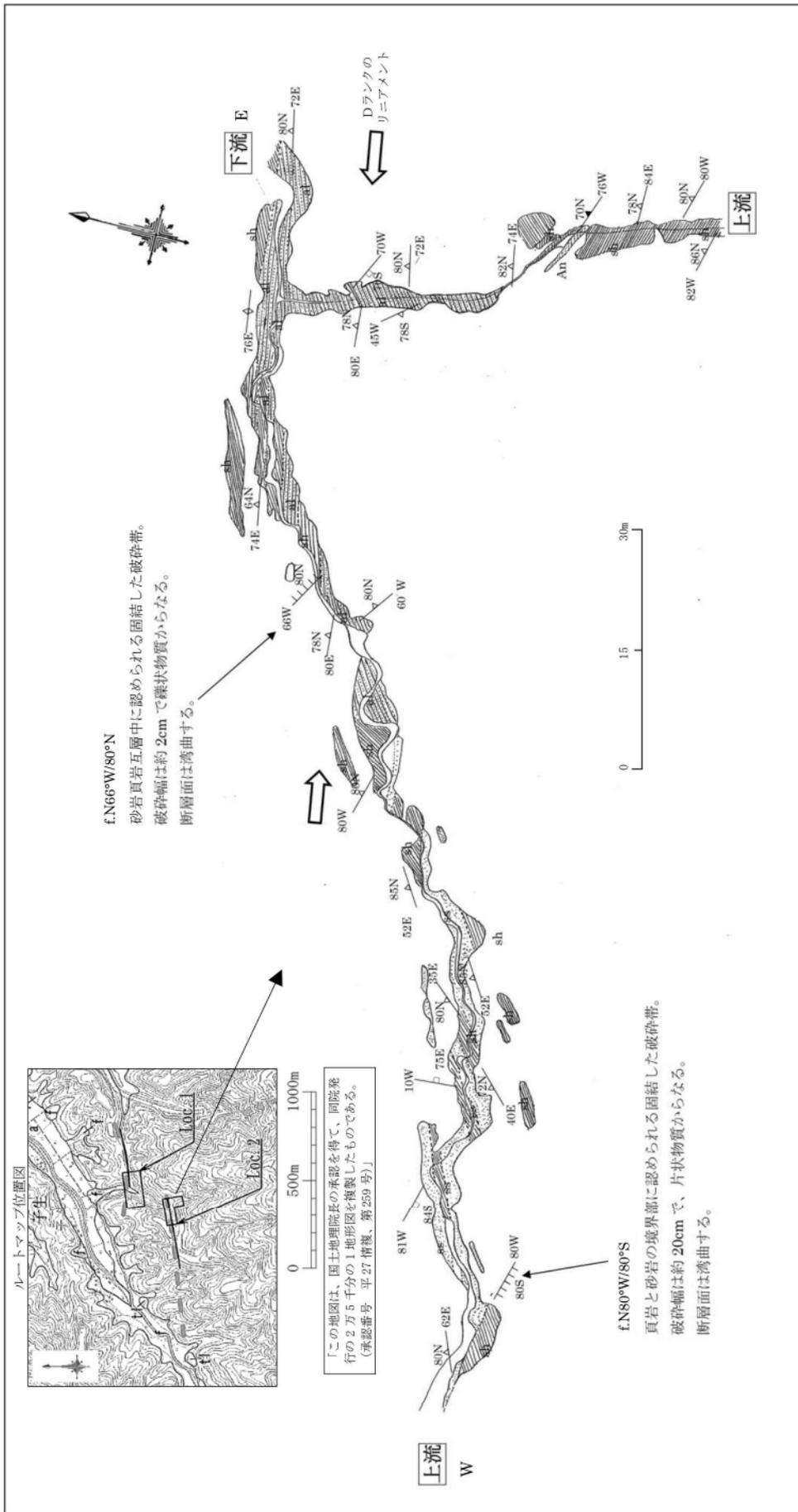


断層面の状況
左横ずれ逆断層



- ・ 糸線観察の結果、糸線のレイクは 60° L であり、運動センスは左横ずれ逆断層である。
- ・ これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

第 3.2.130 図 子生リニアメント 糸線観察結果 (Loc. 1、CB-BI 試料)



河床および河岸斜面において剥ぎ取り調査を実施し、リニアメント直交方向に長さ約60mにわたり、砂岩と頁岩の連続露頭を確認した。ここに2条の断層が認められ、破碎帯の幅はそれぞれ約2cmと約20cmである。断層面の走向傾斜はN66°W/80°NとN80°W/80°Sで、リニアメント方向(N80°E)とほぼ調和的である。断層面は湾曲し、いずれの破碎帯も固結している。

リニアメント判読位置付近には、約1cm〜約2cm間隔で発達する頁岩及び砂岩頁岩互層中のへき開面が顕著である。リニアメント通過付近のへき開面の卓越方向はE-Wで、北側に高角度で傾斜しており、リニアメント方向と調和的である。

第3.2.131 図 子生リニアメント ルートマップ (Loc.2)

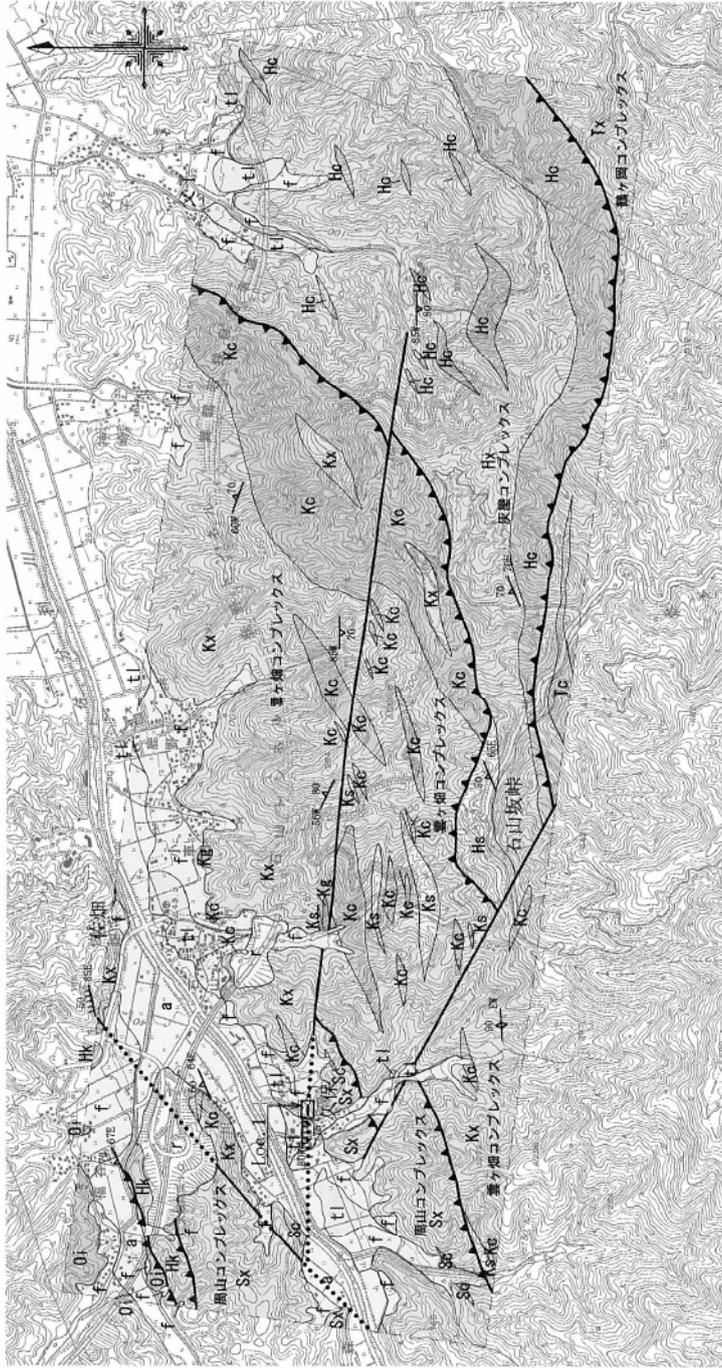


1:25,000
0 500m 1000m

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平27情復、第259号)」

- 地形面の凡例
- tl 低位段丘面
 - f 新期扇状地面
 - a 沖積面
 - r 人工改変地

- 変動地形・リニアメントの凡例
- Dラング
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
 - 連続性に富むシャープなリニアメント (L)
岡田・東郷編(2000)²⁹⁾に記載されている
断層組織地形を転記したもの
 - Loc 詳細調査位置 (レポートマップ、スケッチ等)
 - 表示範囲



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情復、第259号)」

- 凡例
- 断層
 - 伏在断層
 - ▲▲ 地質体・コンプレックスの境界
 - ▲▲▲ 面構造 (へき開面など) の走向傾斜 (偏角未補正)
 - ▲▲▲▲ 断面の走向傾斜 (偏角未補正)
 - Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
 - 表示範囲

- 凡例
- | | | | |
|--------------|---------------|----|-----------------|
| 第四紀 | 完新世 | r | 人工変質地 |
| | 沖積層 | a | 礫、砂及び泥 |
| | 新期扇状地堆積物 | f | 礫、砂及び泥 |
| | 更新世 - 低位段丘堆積物 | tl | 礫、砂及び泥 |
| 第四紀 | 更新世 - 低位段丘堆積物 | tx | 泥質混在岩及び頁岩 |
| | | tc | チャート |
| | | hx | 泥質混在岩及び頁岩 |
| | | hs | 砂岩 |
| ジュラ紀
前~後期 | 丹波帯 | hc | チャート |
| | | kx | 泥質混在岩及び頁岩 |
| | | ks | 砂岩 |
| | | kg | チャート |
| ジュラ紀
前~後期 | 丹波帯 | kr | 緑色岩類 |
| | | st | 泥質混在岩及び頁岩 |
| | | sc | チャート |
| | | hk | 砂岩 (頁岩を伴う) |
| ペルム紀
中~後期 | 超丹波帯 | oi | 頁岩 (砂岩・チャートを伴う) |
| | | | 大板層 |

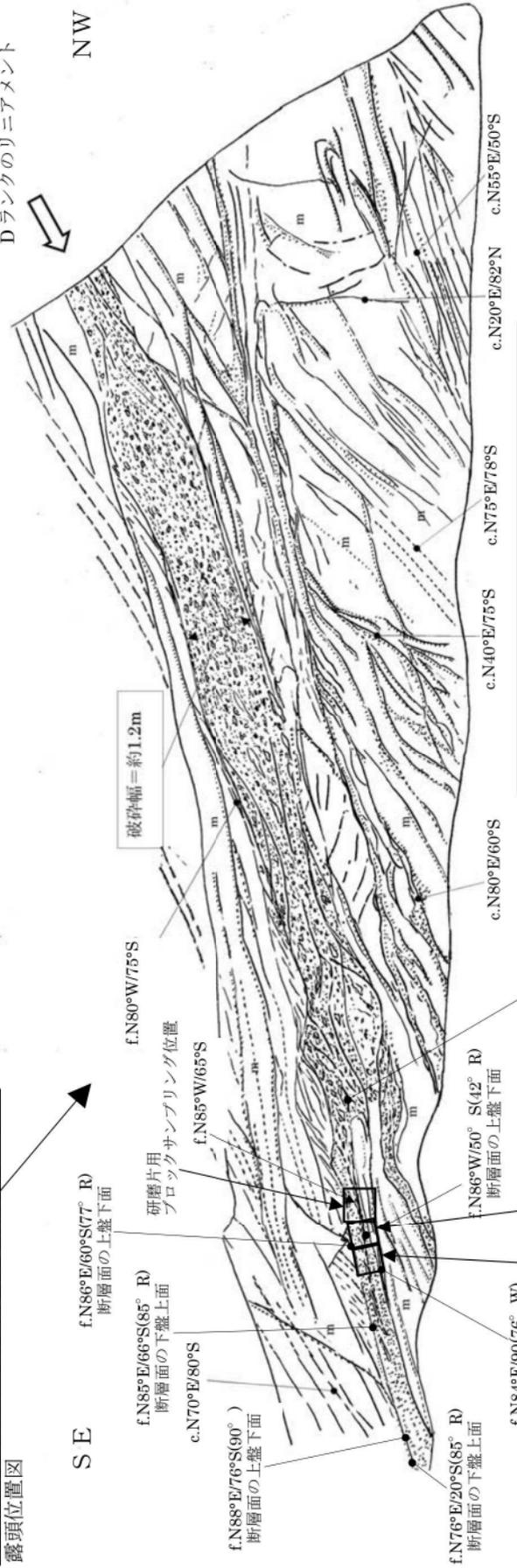


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号平27 情復、第259号)」



リニアメント判読位置の泥質混在岩(丹波帯)中の破碎帯露頭。
幅約1.2mの黒色を帯びた破碎帯で、破碎帯を含めた破碎帯周辺幅約4mは、灰色～白色の変質粘土脈が発達する。破碎帯は角礫状を呈し、所々に変質粘土脈が認められ、分布は不規則である。断層面は湾曲し、直線的でない。断層面の走向傾斜は $N80^{\circ}W/75^{\circ}S$ であり、リニアメント方向($N80^{\circ}W$)と調和的である。変質粘土脈は幅約0.5cm～約30cmで、断層面及び割れ目に沿って網目状に分布している。

Dラングのリニアメント
NW

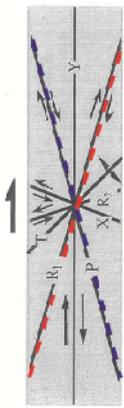


凡 例

- 泥質混在岩 (丹波帯)
- 角礫状破碎部
- 変質粘土
- f.N80°W/75°S: 断層面の走向傾斜
- f.N80°W/75°S(42°R): 断層面の走向傾斜 (条線の方向)
- c.N80°W/75°S: 割れ目の走向傾斜

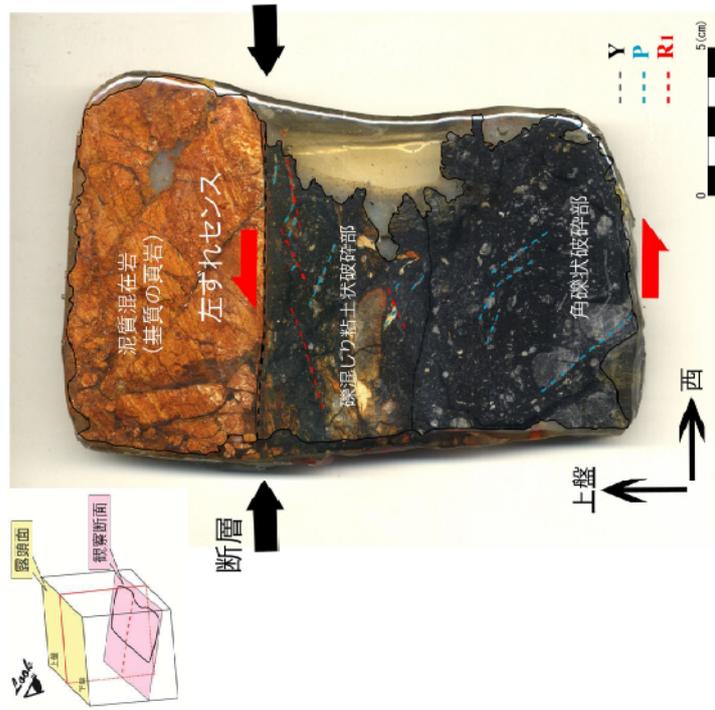
※走向傾斜の偏角未補正

第3.2.134図 石山坂峠北リニアメント 露頭スケッチ (Loc.1)



せん断センスを示す複合面構造 (狩野・村田, 1998 (1.53))

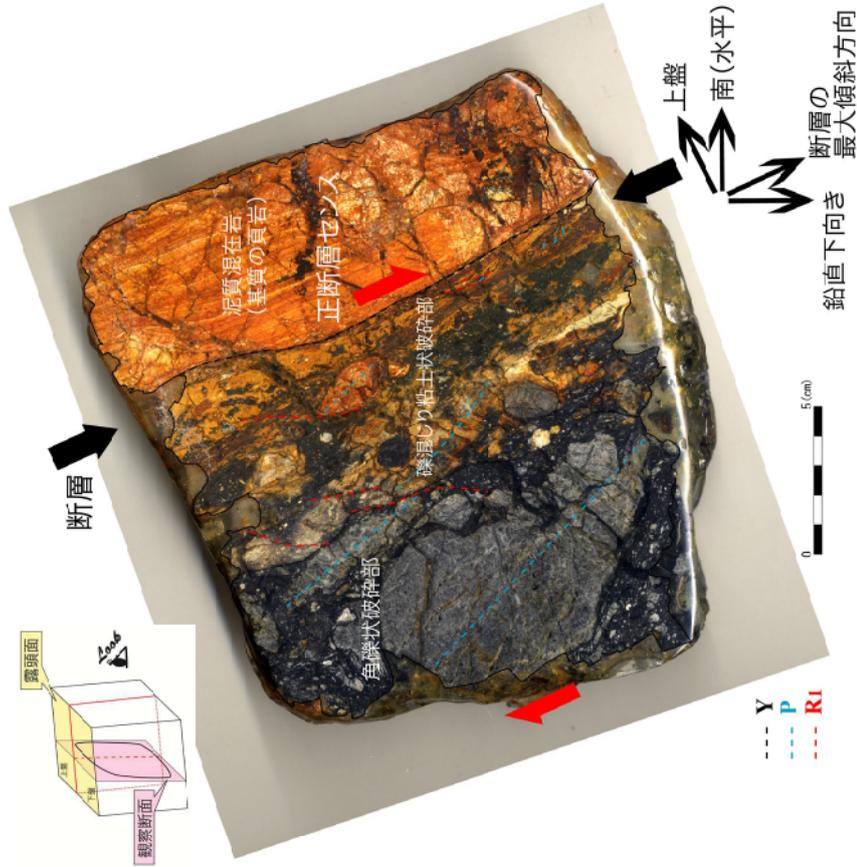
研磨片 (横ずれ成分観察用)



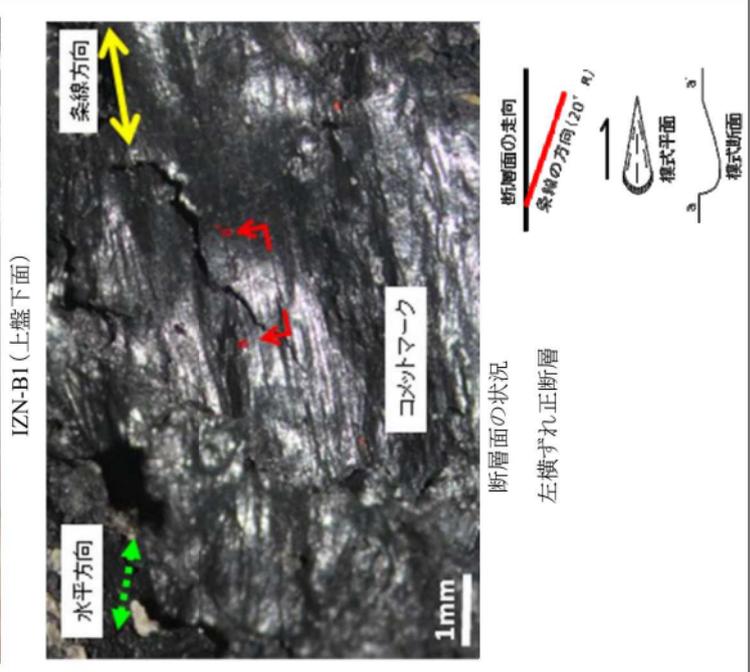
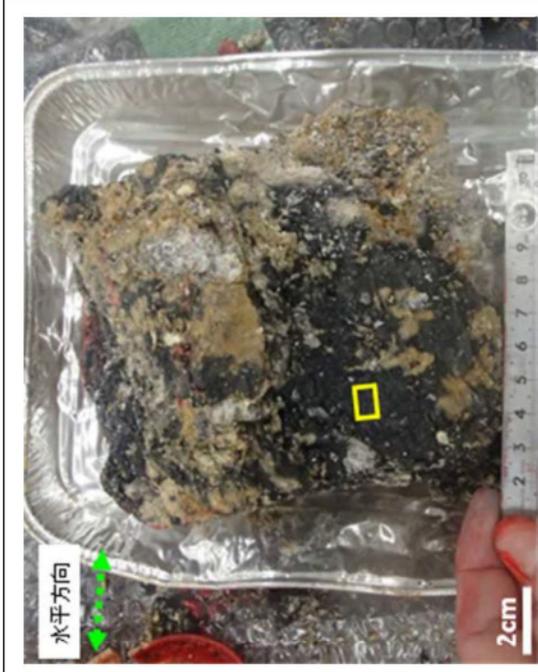
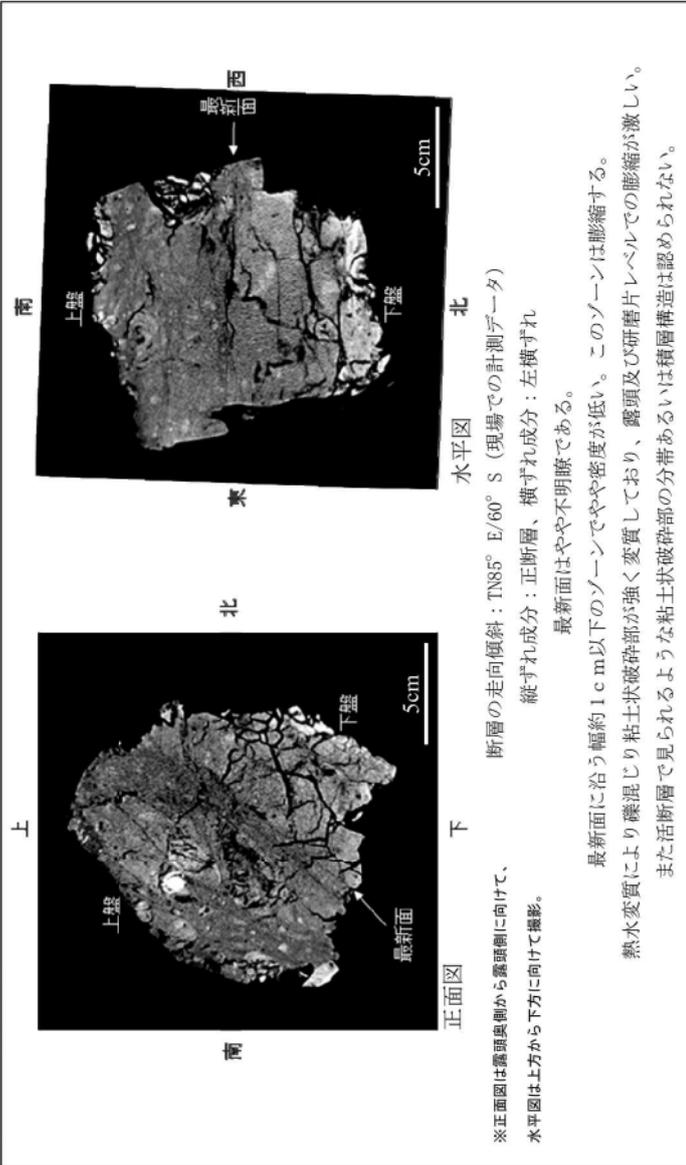
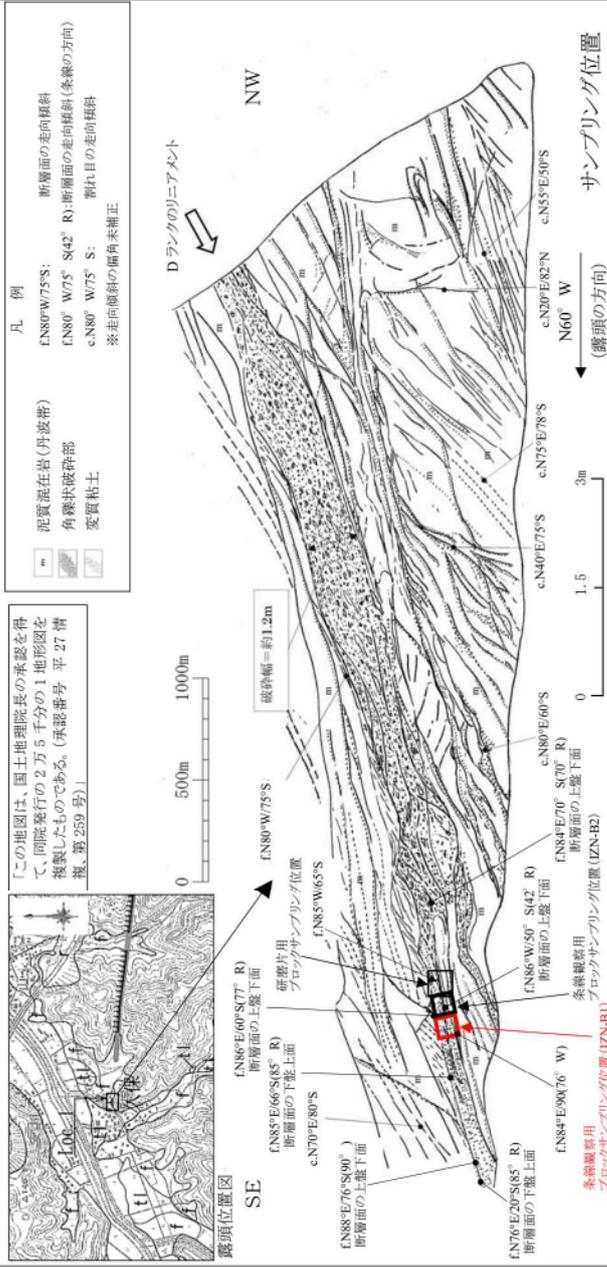
研磨片観察結果

- ・泥質混在岩を原岩とする角礫状破砕部及び隣混じり粘土状破砕部からなる。
- ・Y面とP面・R1面の関係から、最新活動を示す断層面の變形組織は左ずれ・正断層センスを示す。

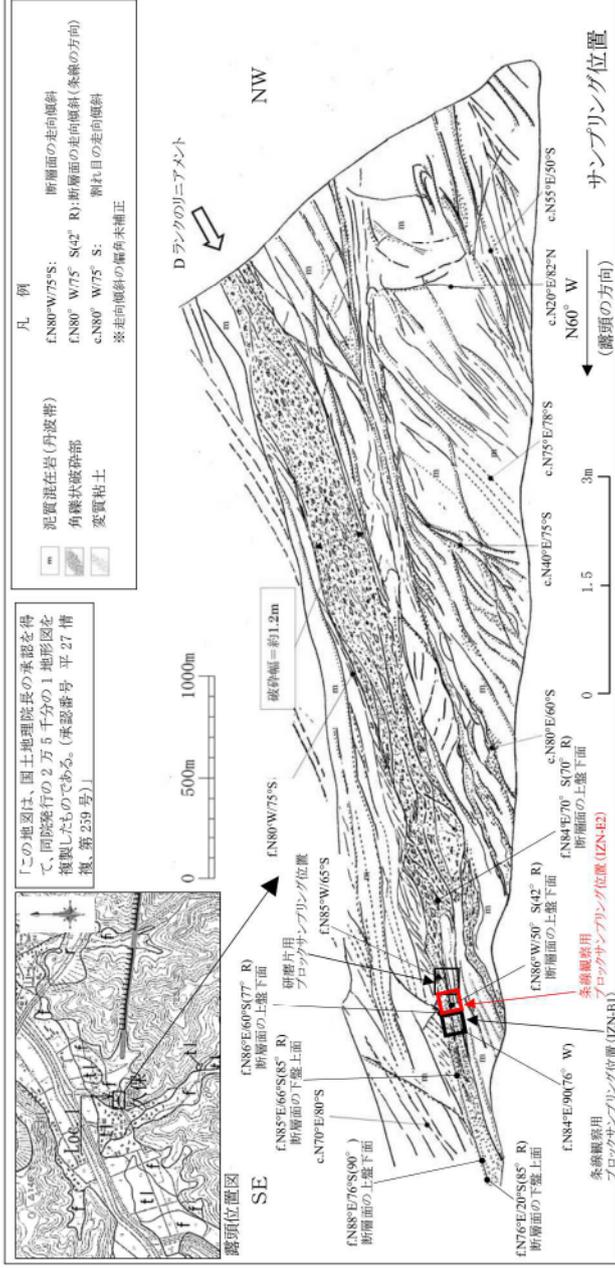
研磨片 (縦ずれ成分観察用)



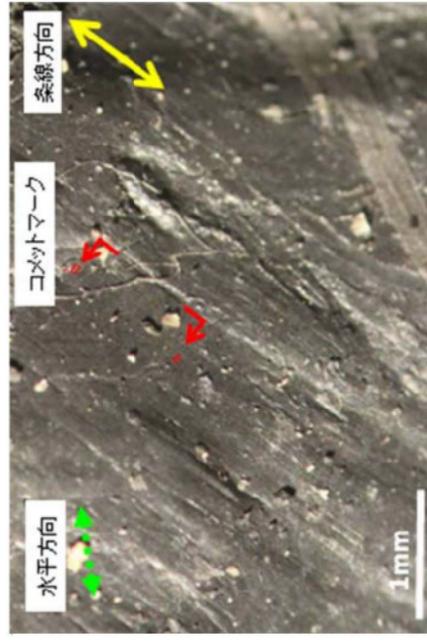
第 3. 2. 135 図 石山坂峠北リニアメント 研磨片観察結果 (Loc. 1)



- ・ 糸線観察の結果、糸線のレイクは20° R であり、運動センスは左横ずれ正断層である。
- ・ これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

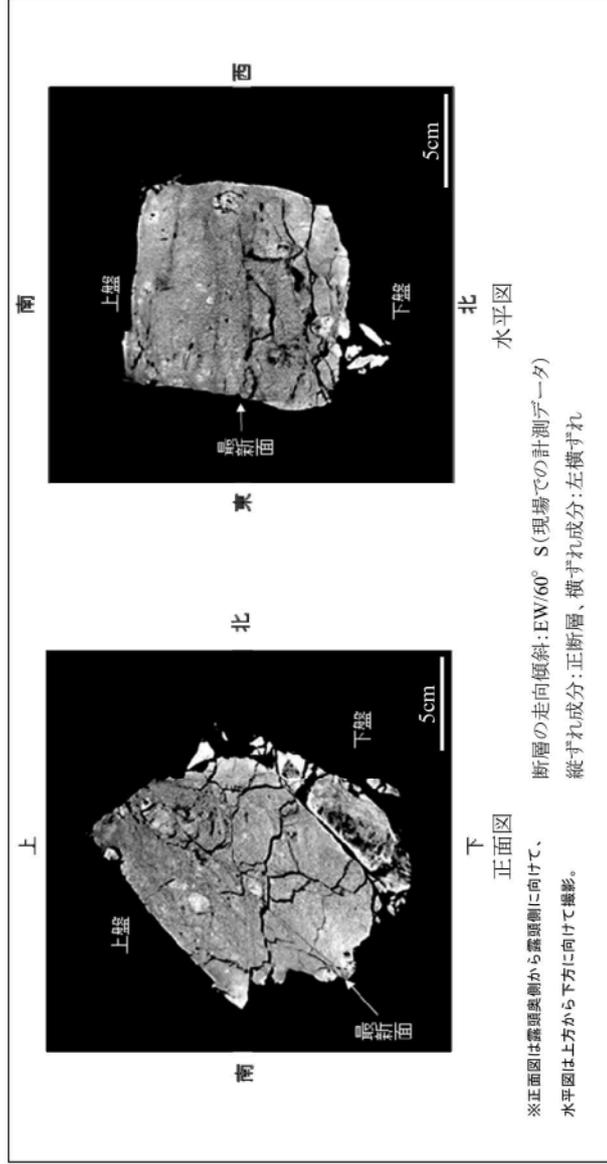
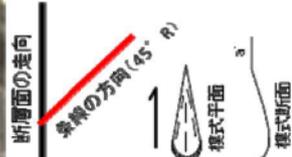


IZN-B2 (上盤下面)



断層面の状況

左横ずれ正断層



※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、
水平図は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜:EW/60°S(現場での計測データ)
縦ずれ成分:正断層、横ずれ成分:左横ずれ

- ・糸線観察の結果、糸線のレイクは45°Rであり、運動センスは左横ずれ正断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

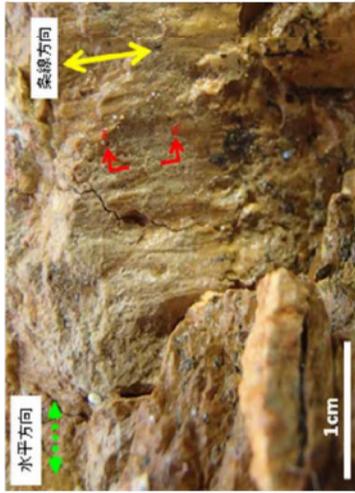
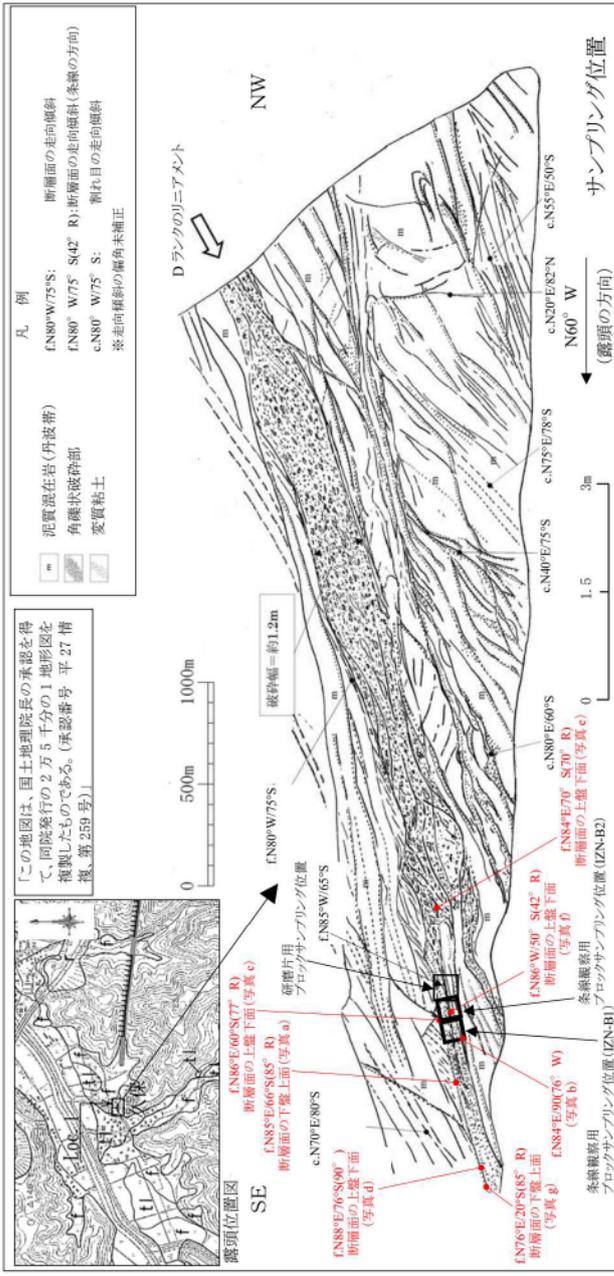


写真 a 断層面の下盤 上面
断層面の走向/傾斜: TN88° W/66° S



写真 b 断層面
断層面の走向/傾斜: TN89° W/90°

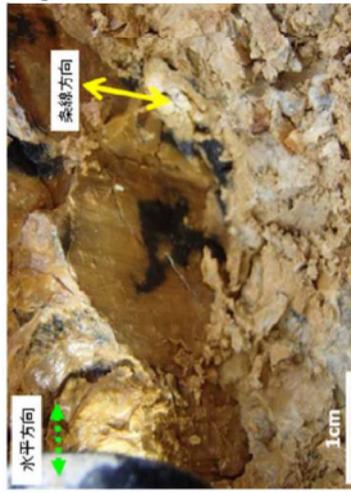
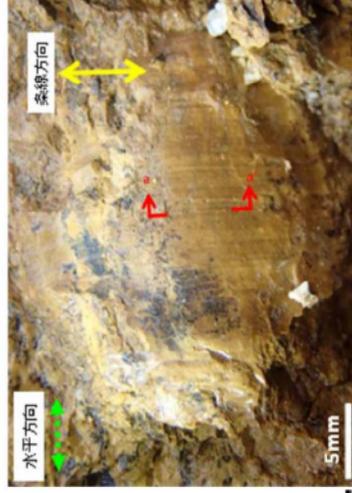
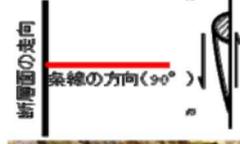
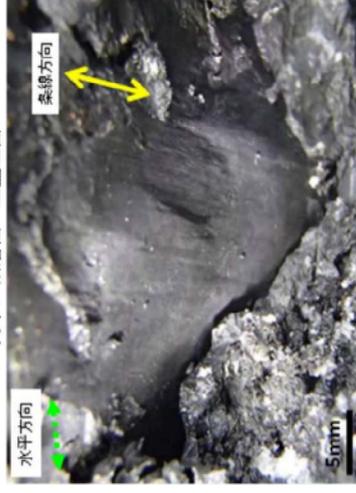


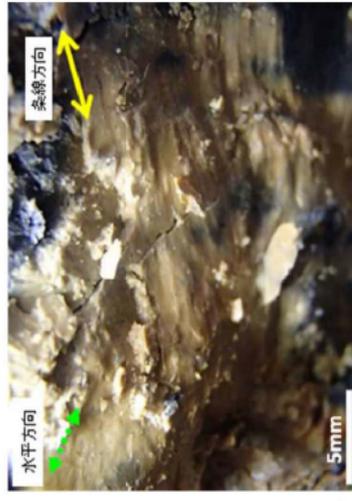
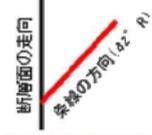
写真 c 断層面の上盤 下面
断層面の走向/傾斜: TN87° W/60° S



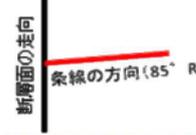
断層面の走向/傾斜:
TN85° W/76° S



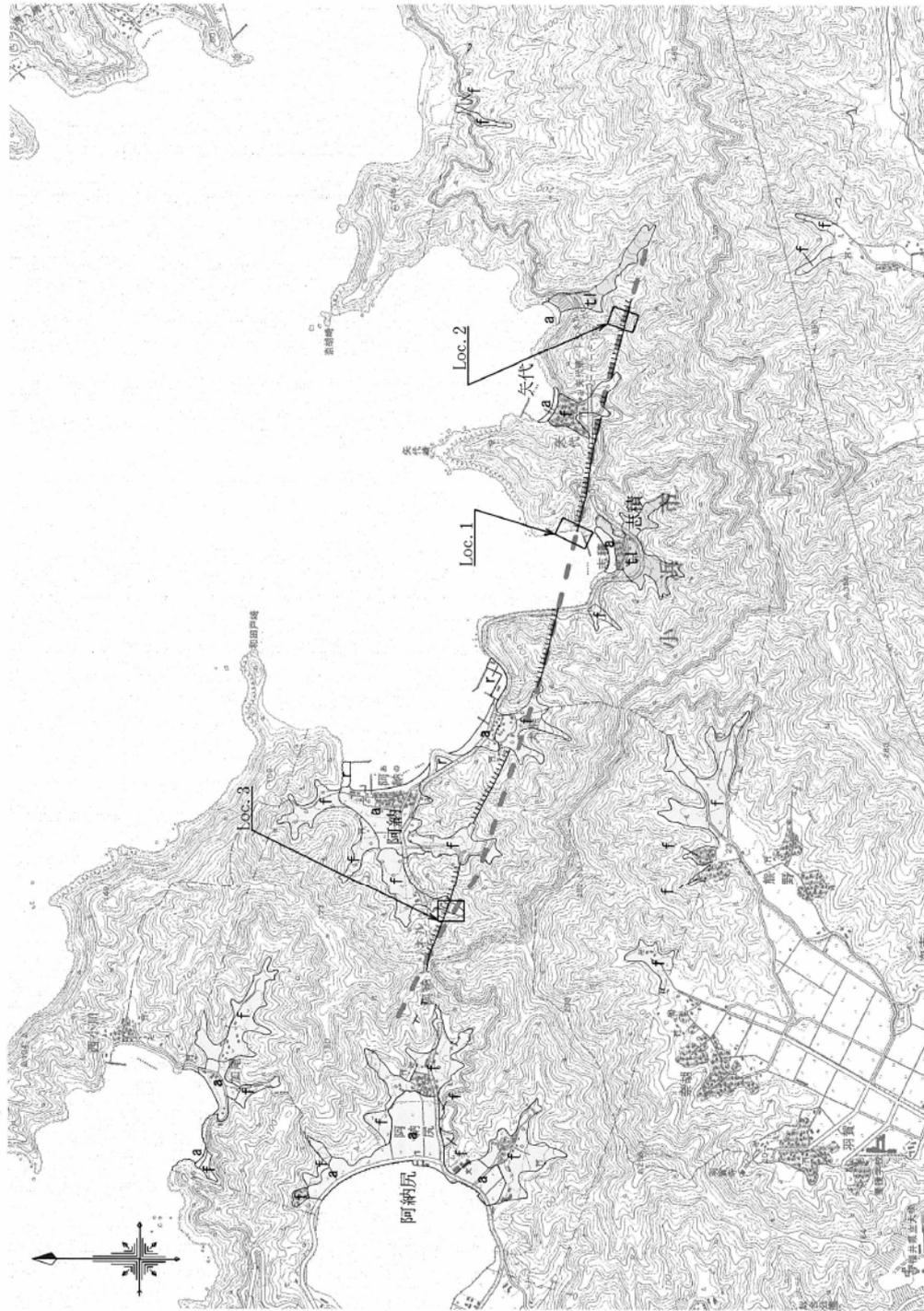
断層面の走向/傾斜:
TN89° W/70° S



断層面の走向/傾斜:
TN79° W/50° S



断層面の走向/傾斜:
TN83° E/20° S
糸線はやや不明瞭



地形面の凡例

- 低位段丘面
- 新扇状地
- 沖積面
- 人工改変地

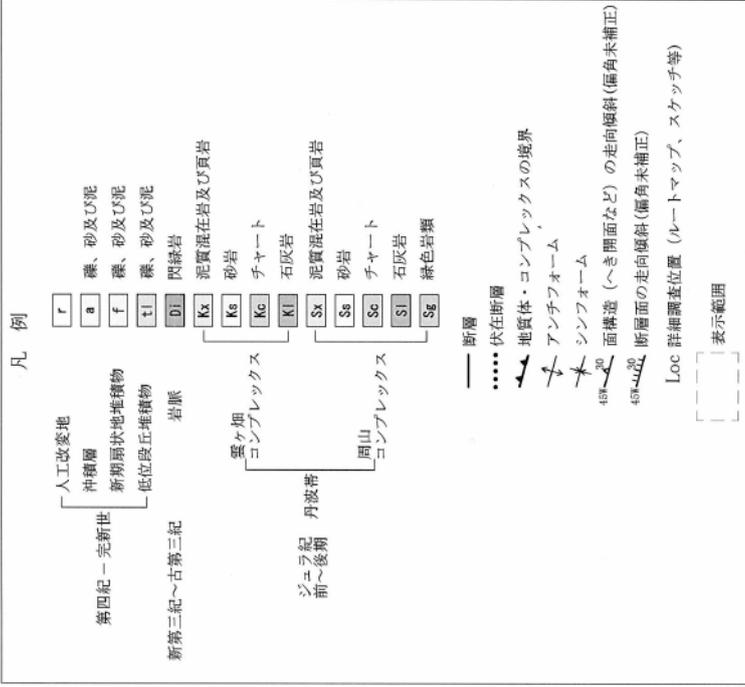
変動地形・リニアメントの凡例

- Dラング
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。
- 主なリニアメント
岡田・東郷編(2000)^{DM}に記載されている断層組織地形を転記したもの
- Loc 詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
- 表示範囲

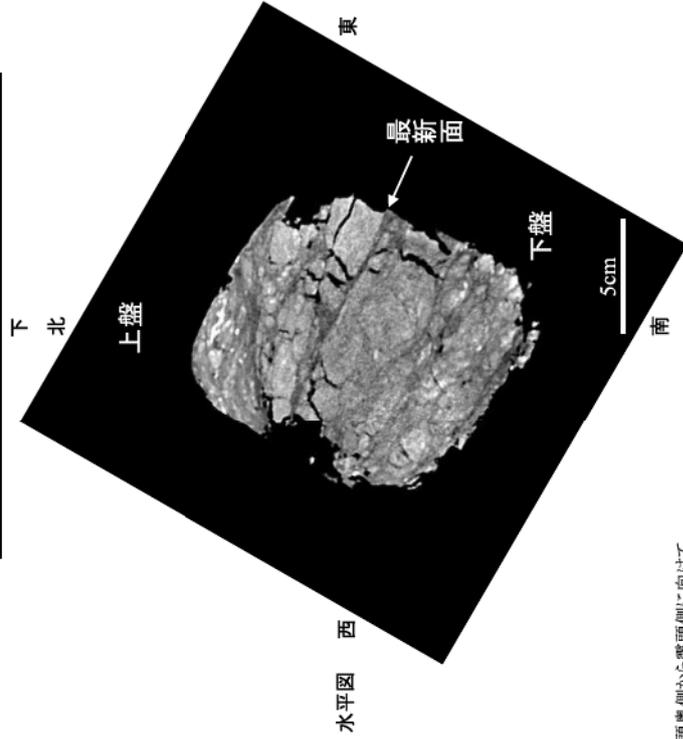
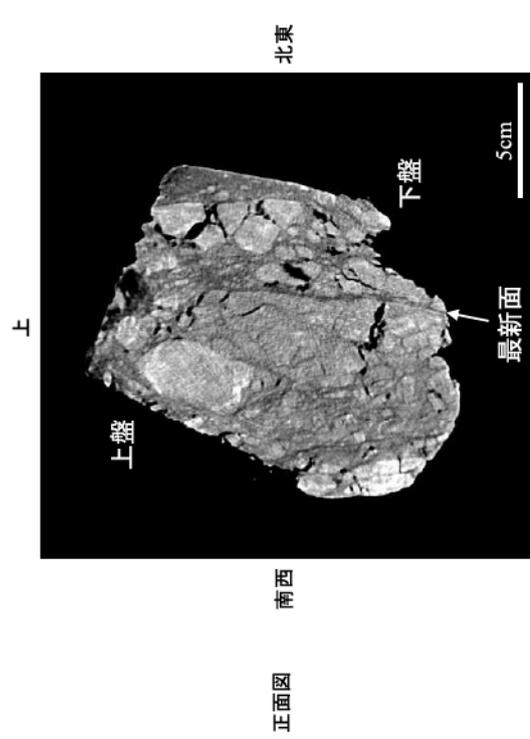
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情報、第259号)」



第3.2.137図 矢代リニアメント周辺の地形調査結果



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平27情報、第259号)」



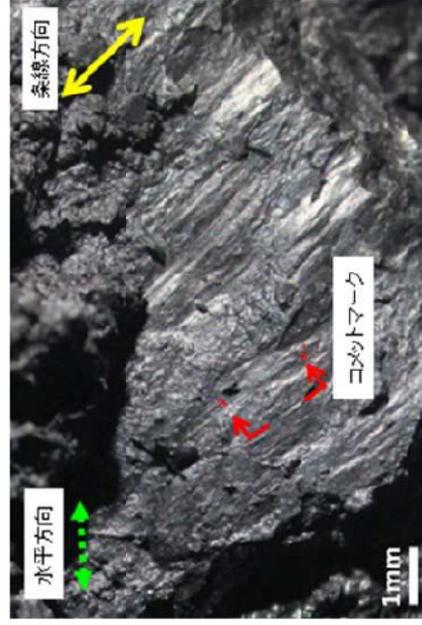
※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、
水平図は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜: TN67W/85S (現場での計測データ)

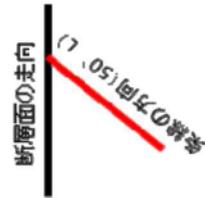
縦ずれ成分: 不明、横ずれ成分: 右横ずれ

最新面はやや湾曲している。

最新面に沿う幅約 2mm のゾーンで密度が低い(粘土状破砕部)。

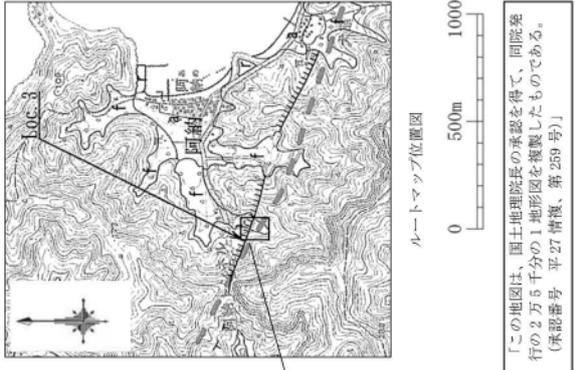
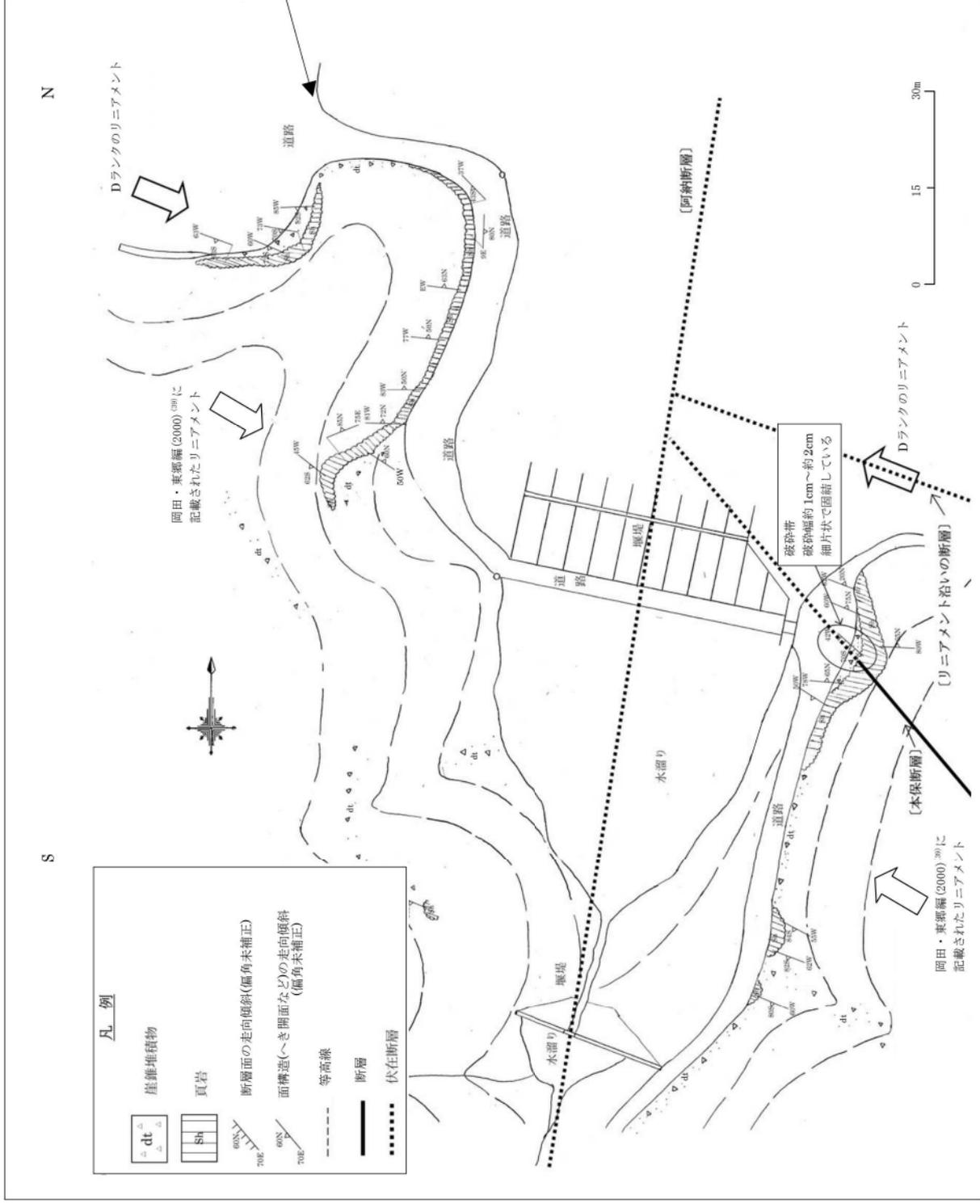


断層面の状況
右横ずれ正断層



- ・条線観察の結果、条線のレイクは 50° L であり、運動センスは右横ずれ正断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

第 3.2.141 図 矢代リニアメント 条線観察結果 (Loc. 2、YS-BI 試料)

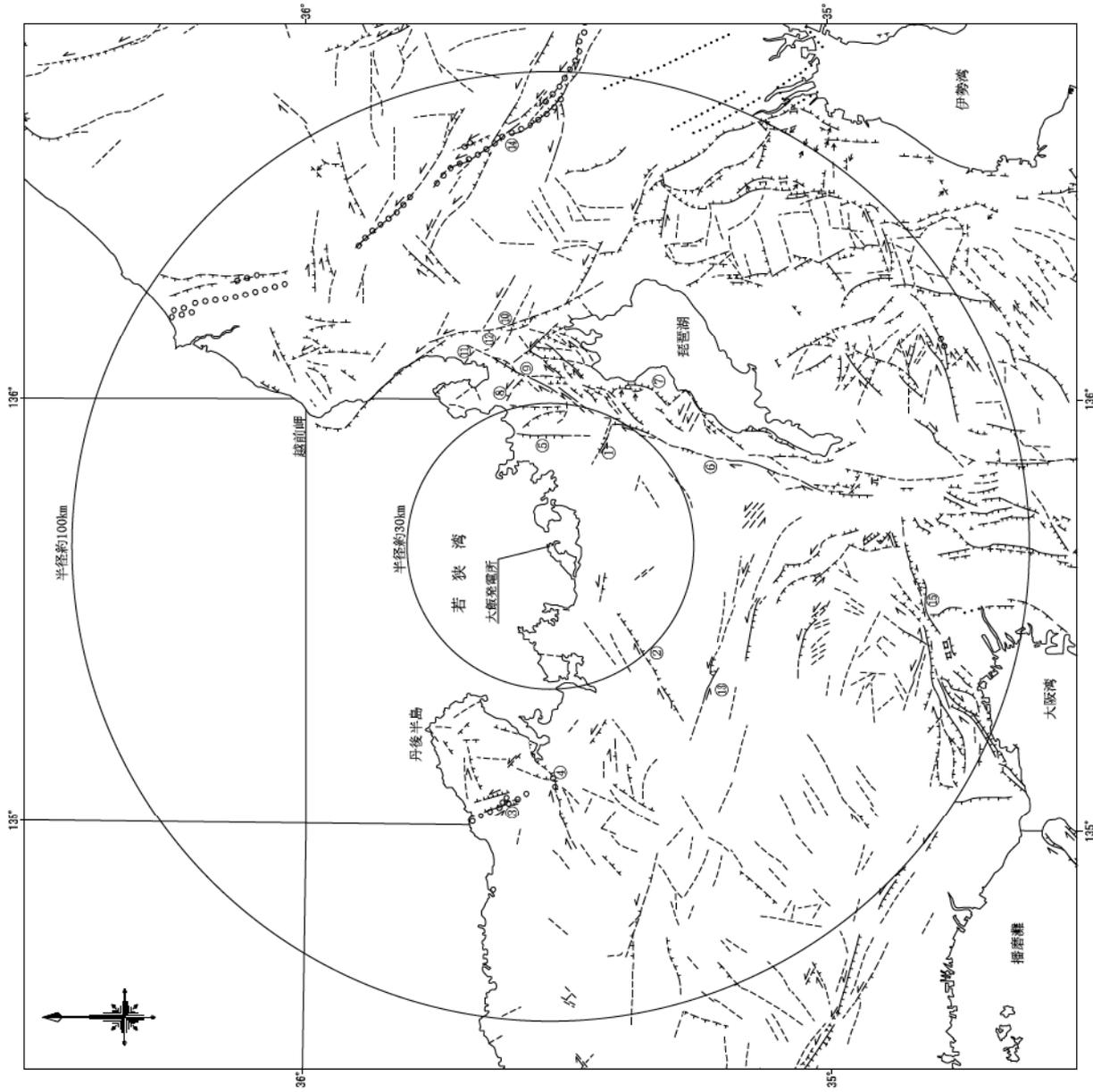


Dランクのリニアメント判読位置及び岡田・東郷(2000)⁽³⁰⁾のリニアメント記載位置において剥ぎ取り調査を行った。

西側の露頭にはリニアメント直交方向に約55mの頁岩の連続露頭を確認したが、断層は認められない。東側の露頭にはリニアメント直交方向に約35mの頁岩の連続露頭と固結した破砕帯を有する断層が一帯認められた。断層面の走向傾斜は N42° W/70° S であり、中江他 (2002)⁽³¹⁾の断層の記載位置や断層の走向から本保断層に相当するものと判断し、西側の連続露頭で断層が認められないことから、阿納断層で切られると考えられる。

Dランクのリニアメント沿いの断層は、西側の連続露頭で認められないので、本保断層と同じく、阿納断層に切られると考えられる。

第3.2.142図 矢代リニアメント ルートマップ (Loc.3)

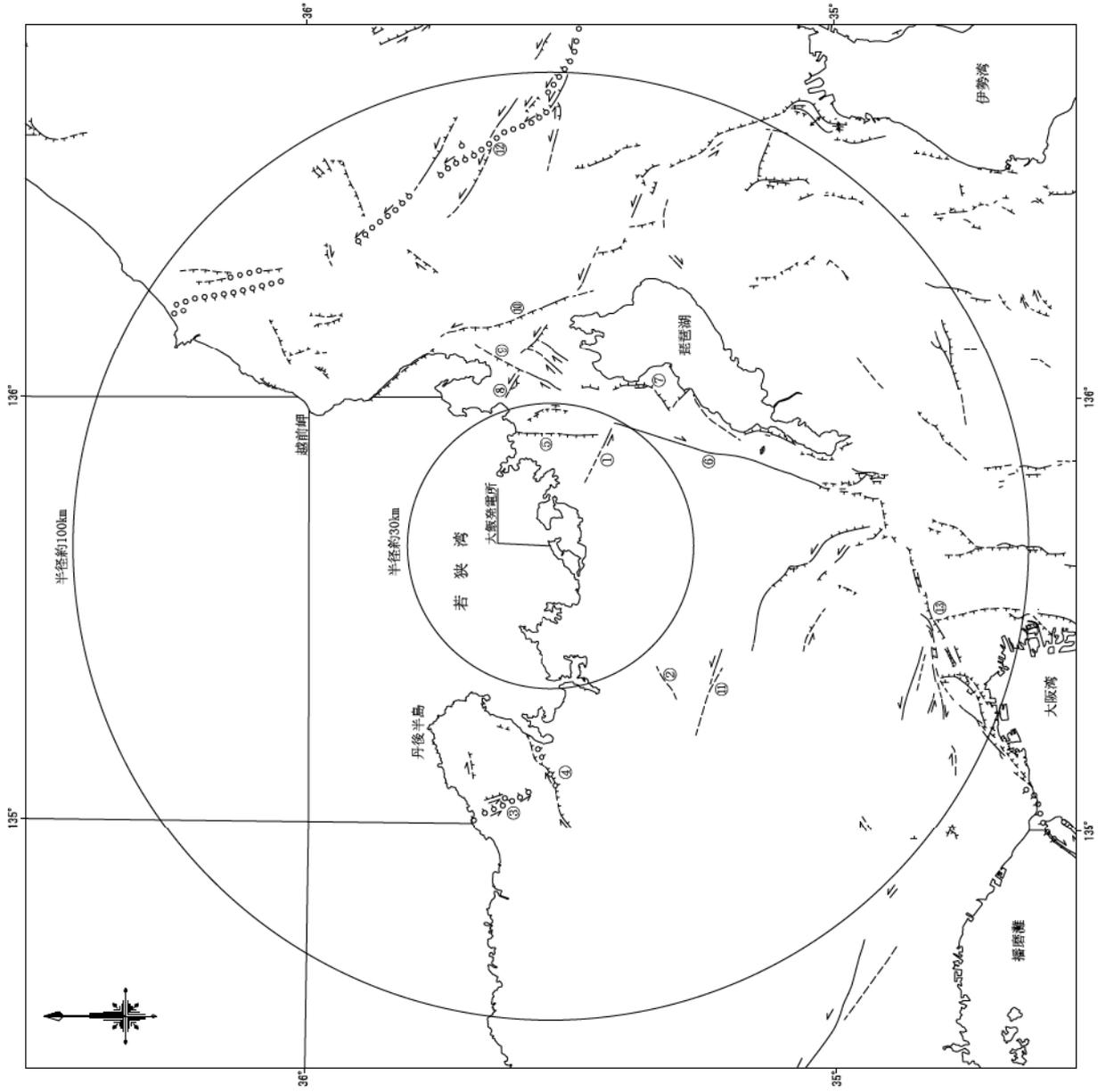


凡 例

- 陸上活断層
- 活断層であることが確実なもの (確実度Ⅰ)
 - 活断層であると推定されるもの (確実度Ⅱ)
 - 活断層の疑いのあるリニアメント (確実度Ⅲ)
 - 断層は断ずれの痕、矢印は断ずれの向きを示す
 - 伏在断層
 - ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 地震断層
 - ← 活變動
 - 地形面の傾き下る方向

①	熊川断層
②	上林川断層
③	郷村断層
④	山田断層
⑤	三方断層
⑥	花折断層
⑦	琵琶湖西岸断層系
⑧	野坂断層
⑨	敦賀断層
⑩	柳ヶ瀬断層
⑪	ウツロギ峠
⑫	池河内断層
⑬	三峠断層
⑭	濃尾地震断層系
⑮	有馬-高槻構造線

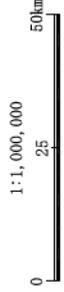
第3.2.143図 敷地周辺陸域の活断層分布図〔新編〕日本の活断層 (半径約100km)



凡 例

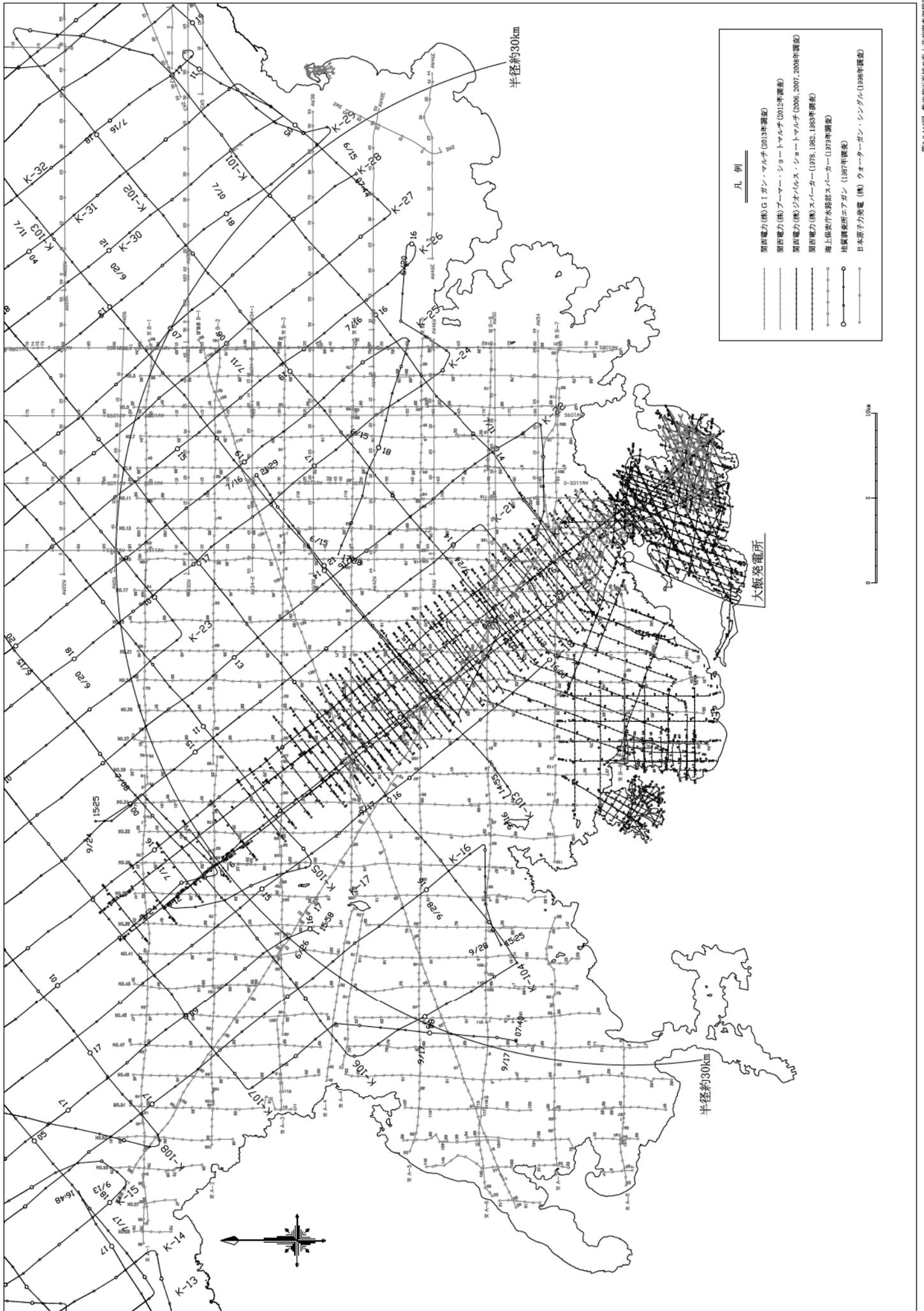
- 地震断層
- 活断層 (主として第四紀後期に活動したもの)
- - - 推定活断層 (同上)
- 上記の断層における変位の向き (矢印は走向ずれの方向、ケハは落下側を示す)
- 第四紀後期層の背斜軸

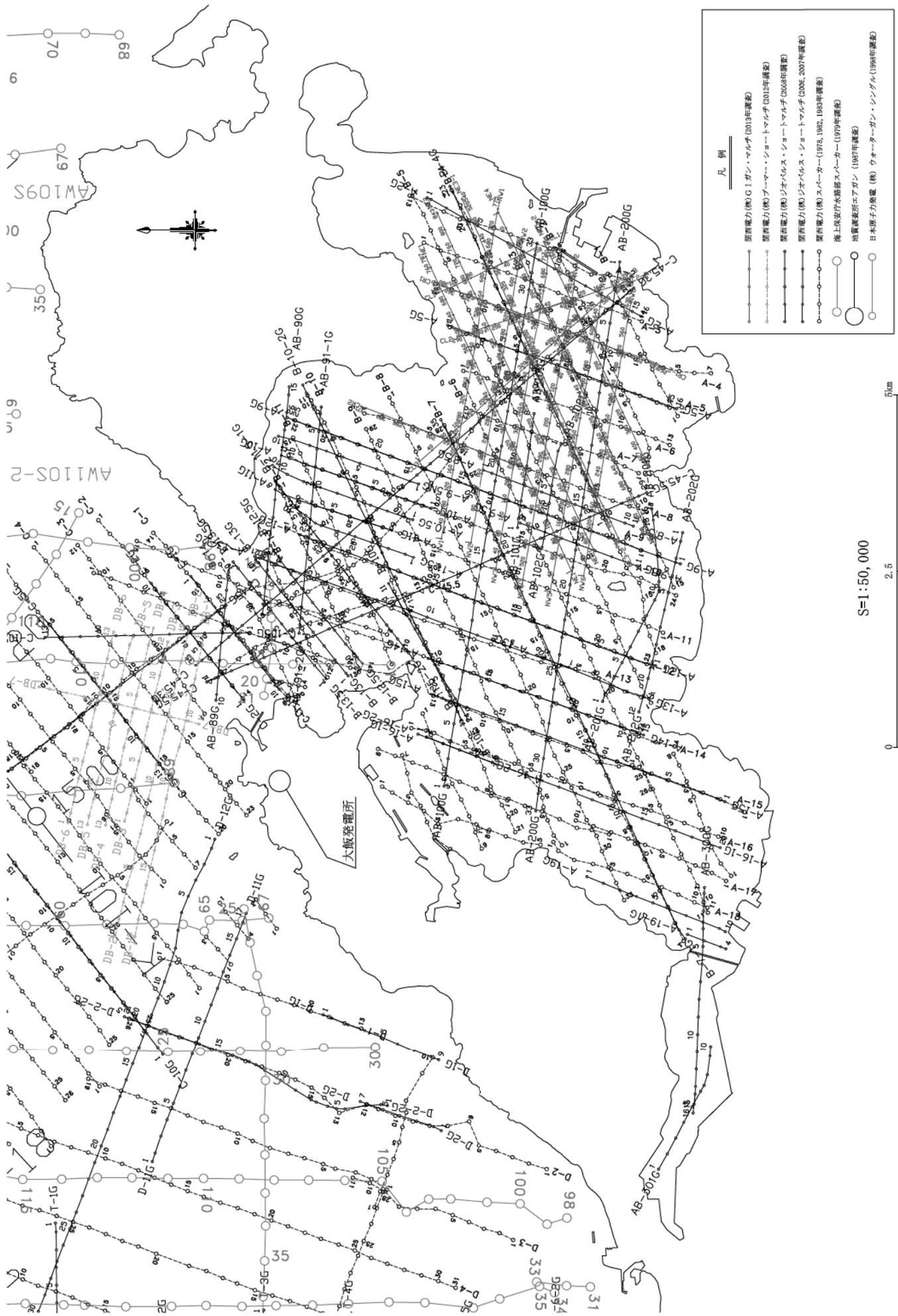
①	熊川断層
②	上林川断層
③	郷村断層
④	山田断層
⑤	三方断層
⑥	花折断層
⑦	琵琶湖西岸断層系
⑧	野坂断層
⑨	敦賀断層
⑩	柳ヶ瀬断層
⑪	三峠断層
⑫	濃尾地震断層系
⑬	有馬-高槻構造線



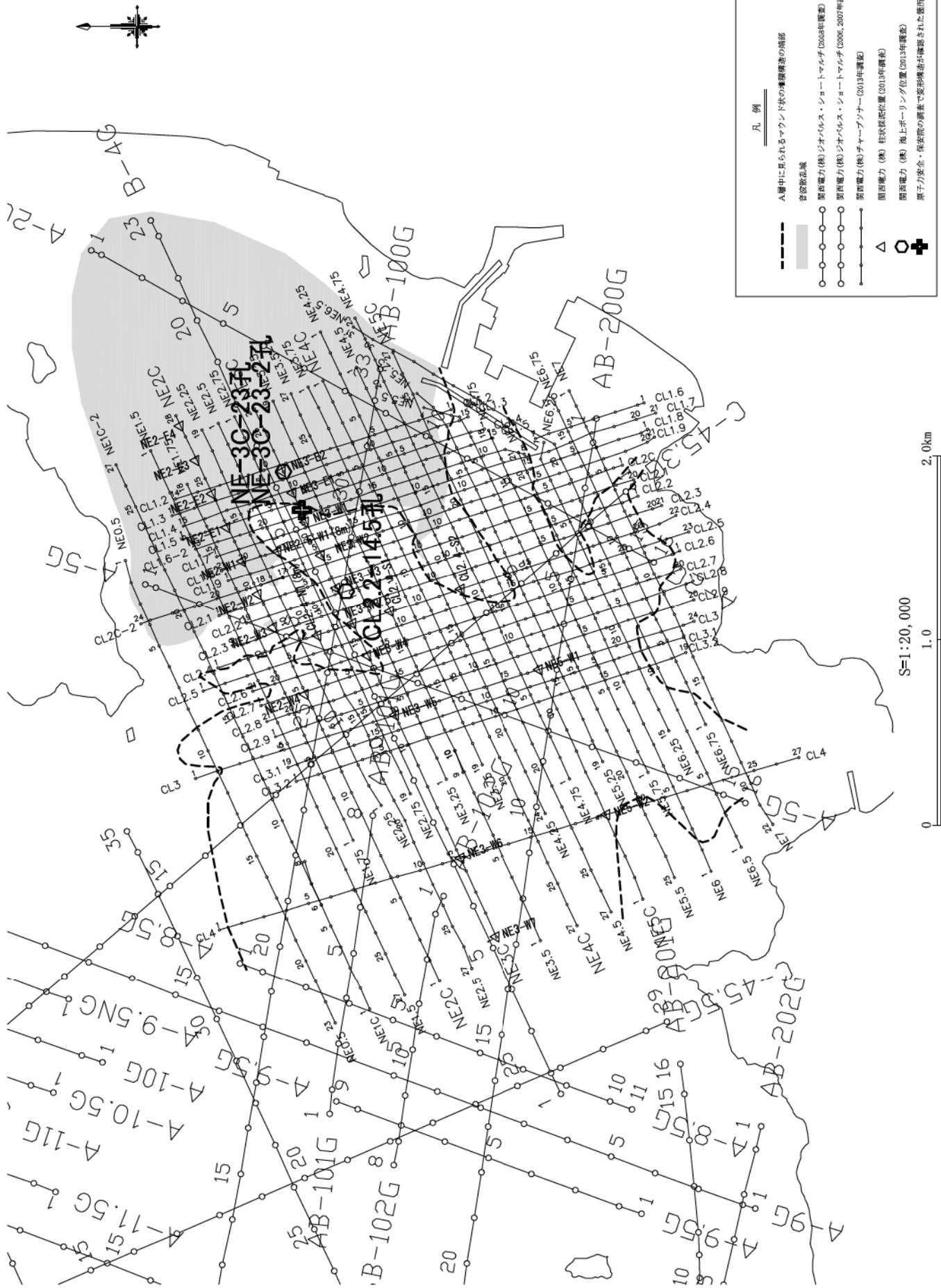
※『50万分の1活構造図「岡山」「金沢」「京都(第2版)」』より作成

第3.2.144図 敷地周辺陸域の活断層分布図「活構造図」(半径約100km)





第3.2.146図 小浜湾付近の海上音波探査測線図

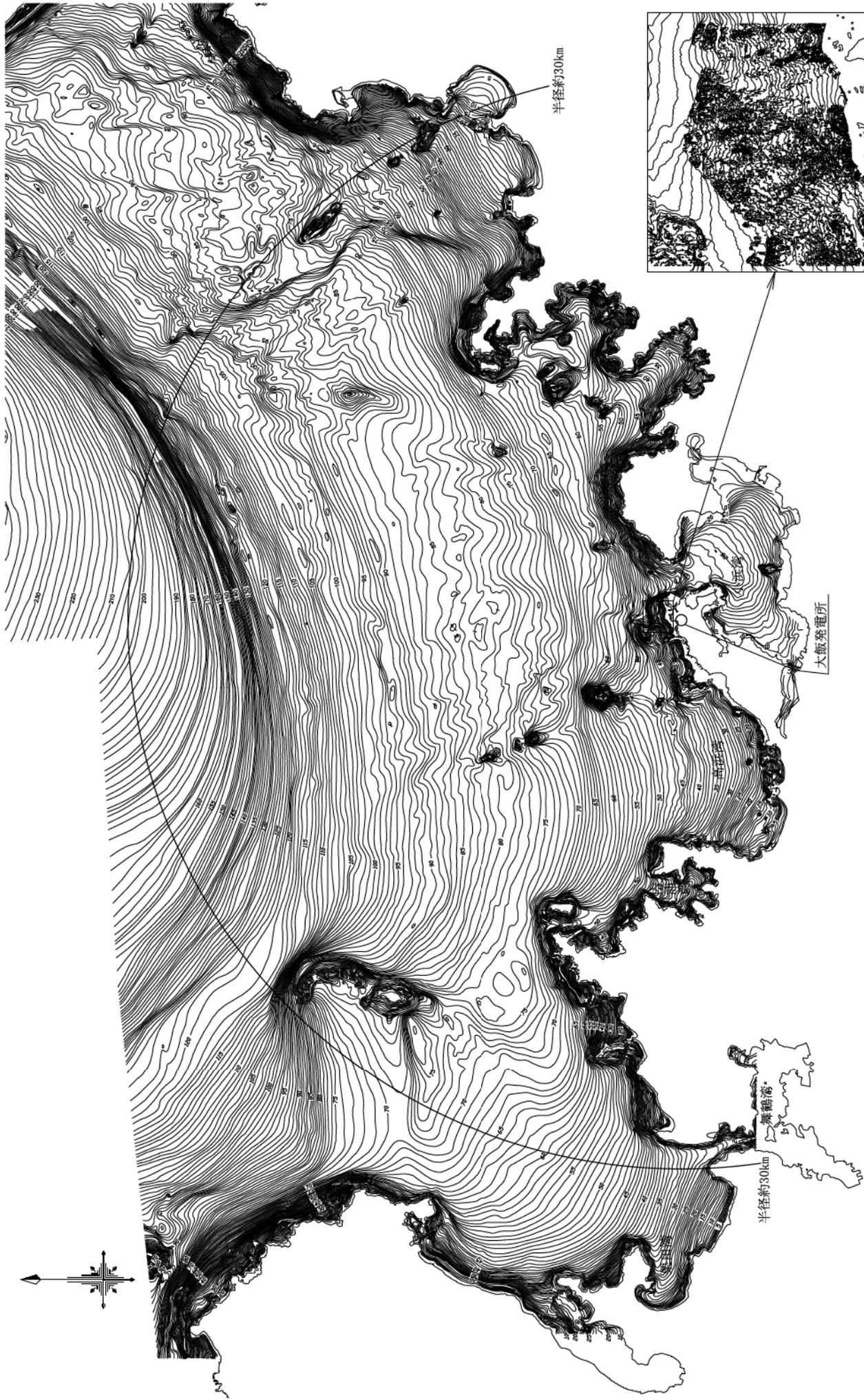


凡 例

- A層中に現れるマウンド状の埋設構造の境界
- 建設区域
- 関西電力(株)シオバルス・ショートマルチ(2008年調査)
- 関西電力(株)シオバルス・ショートマルチ(2006, 2007年調査)
- 関西電力(株)チャープンナー(2013年調査)
- △ 柱状探査位置(2013年調査)
- ⊕ 関西電力(株)海上ボーリング位置(2013年調査)
- ⊕ 原子力安全・保安院の調査で変形構造が確認された箇所

S=1:20,000
0 1.0 2.0km

第3.2.147図 保安院調査による変形構造確認箇所付近の調査位置図 6-3-412



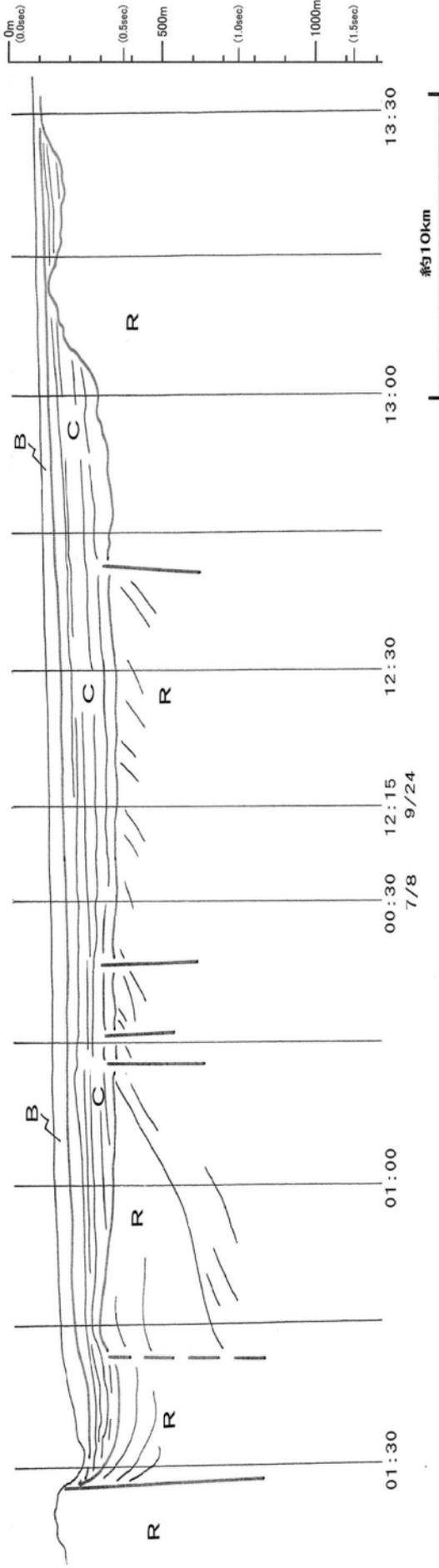
S=1:200,000



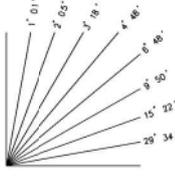
第3.2.148図 敷地前面海域の海底地形図

K-19

→SE



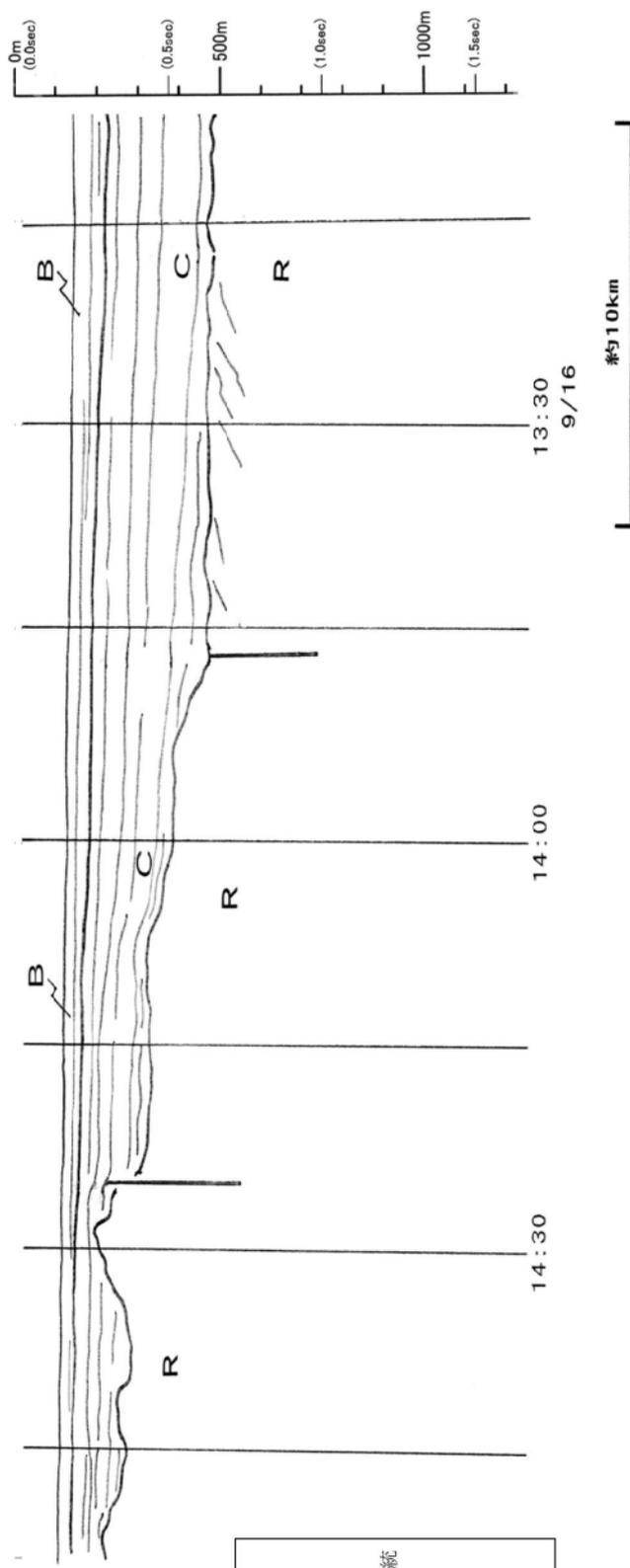
V. E. 5 10



数字(角度)は水平・垂直比が
1 : 1の傾斜角度

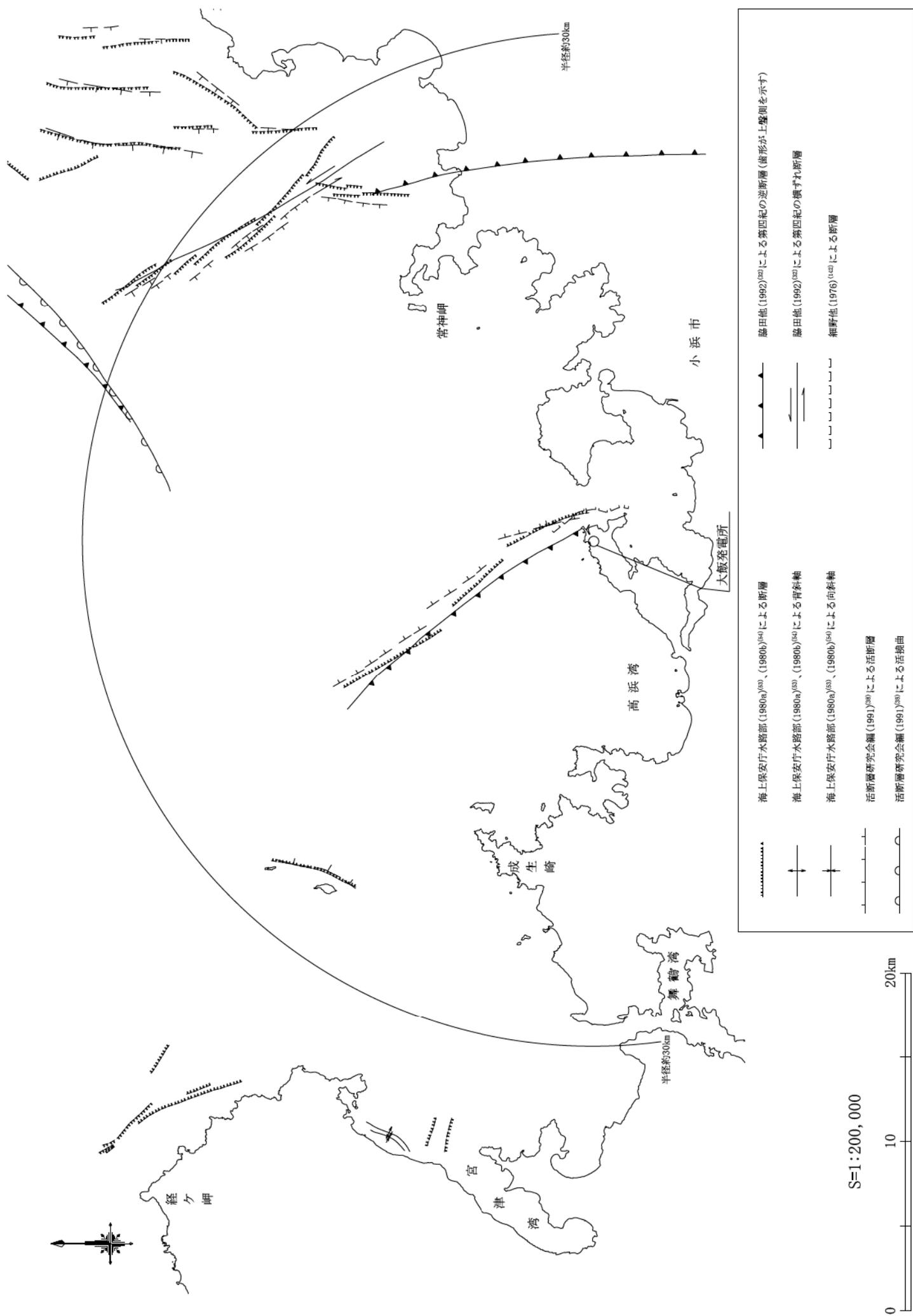
K-103

→NE



凡例

- A層：完新統
- B層：上部更新統
- C層：下部～中部更新統
- R層：先鮮新統～最下部鮮新統
- : 断層
- 地質境界



- | | | | |
|--|---|--|---|
| | 海上保安庁水路部 (1980a) ⁽³³⁾ , (1980b) ⁽³⁴⁾ による断層 | | 藤田他 (1992) ⁽³²⁾ による第四紀の逆断層 (線形が上盤側を示す) |
| | 海上保安庁水路部 (1980a) ⁽³³⁾ , (1980b) ⁽³⁴⁾ による背斜軸 | | 藤田他 (1992) ⁽³²⁾ による第四紀の横ずれ断層 |
| | 海上保安庁水路部 (1980a) ⁽³³⁾ , (1980b) ⁽³⁴⁾ による向斜軸 | | 細野他 (1976) ⁽¹³⁾ による断層 |
| | 活断層研究会編 (1991) ⁽³⁵⁾ による活断層 | | |
| | 活断層研究会編 (1991) ⁽³⁵⁾ による活拗曲 | | |

第3.2.15[1]図 敷地前面海域の文献断層分布図 6-3-417

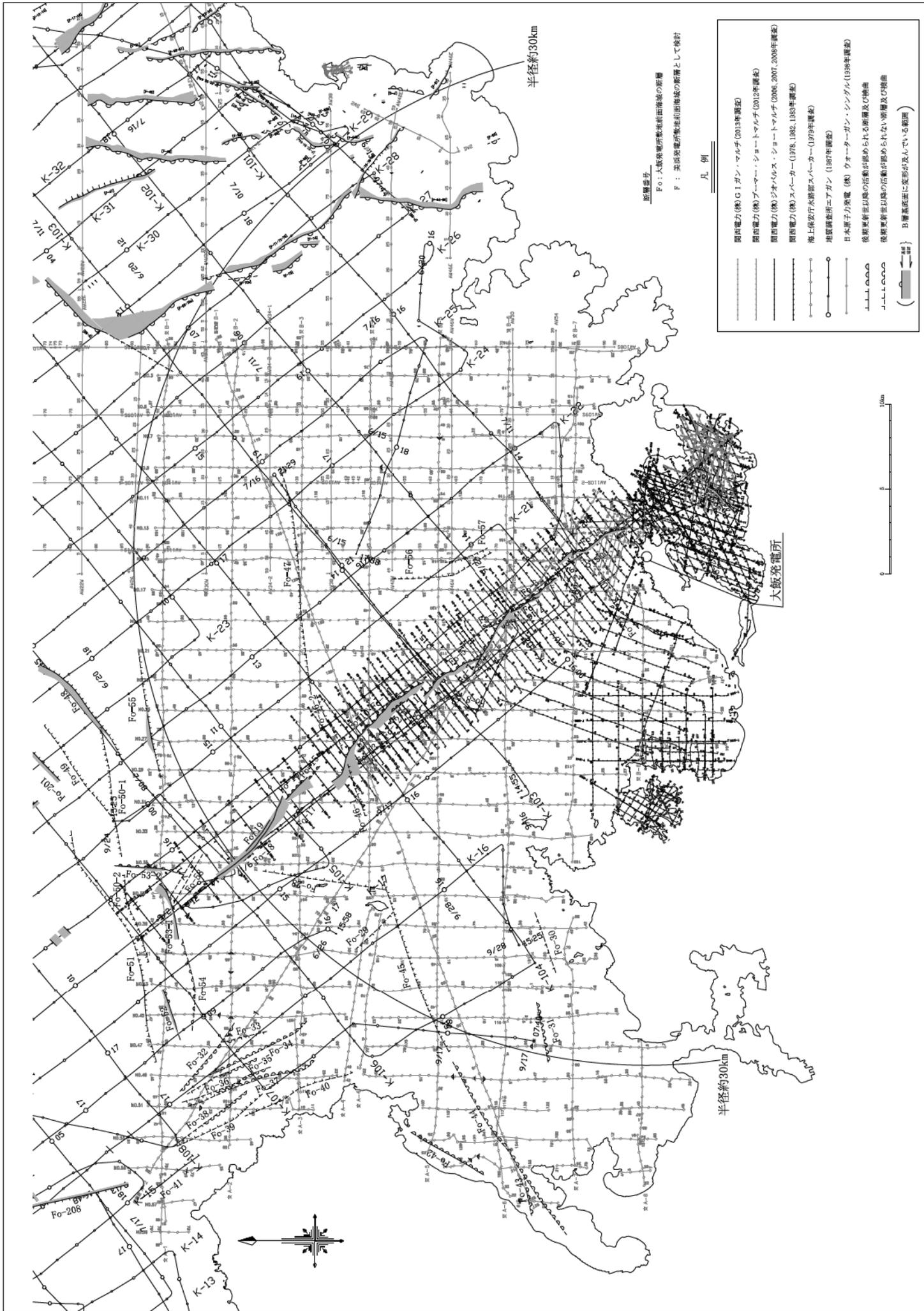
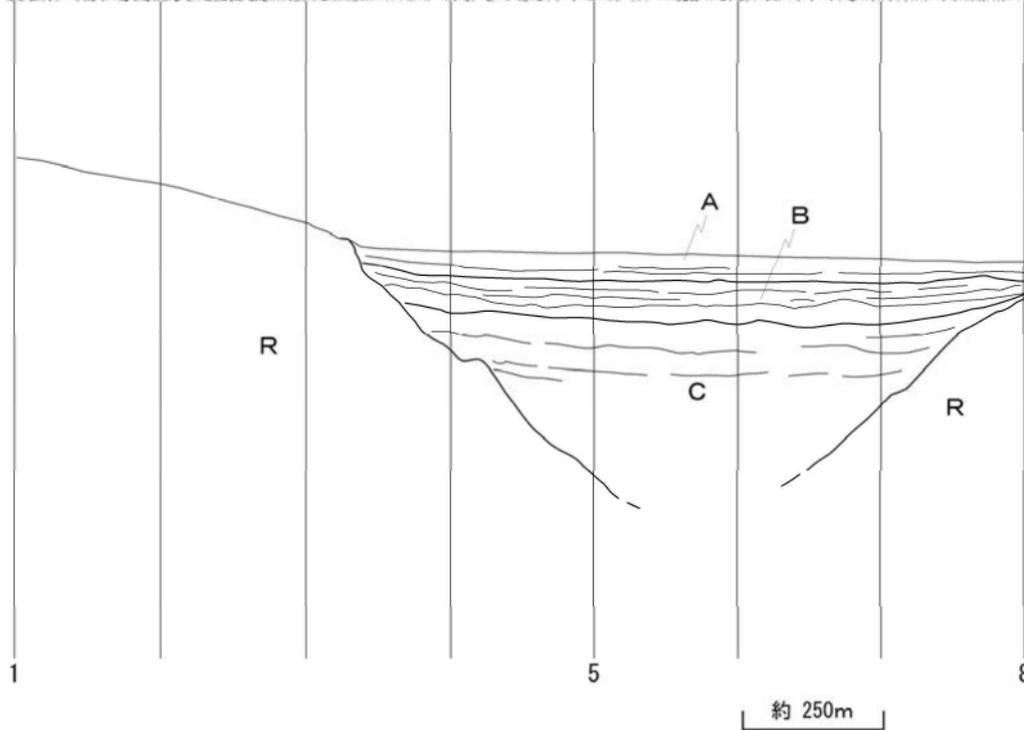
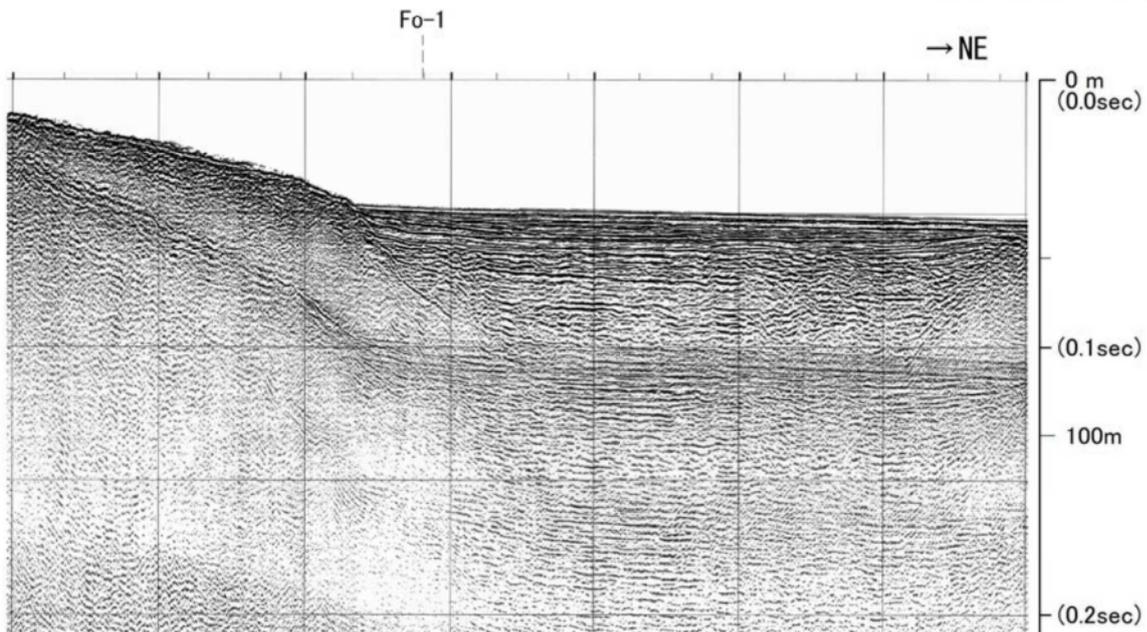
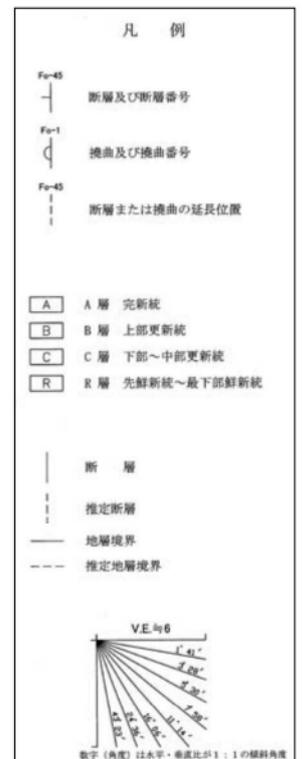


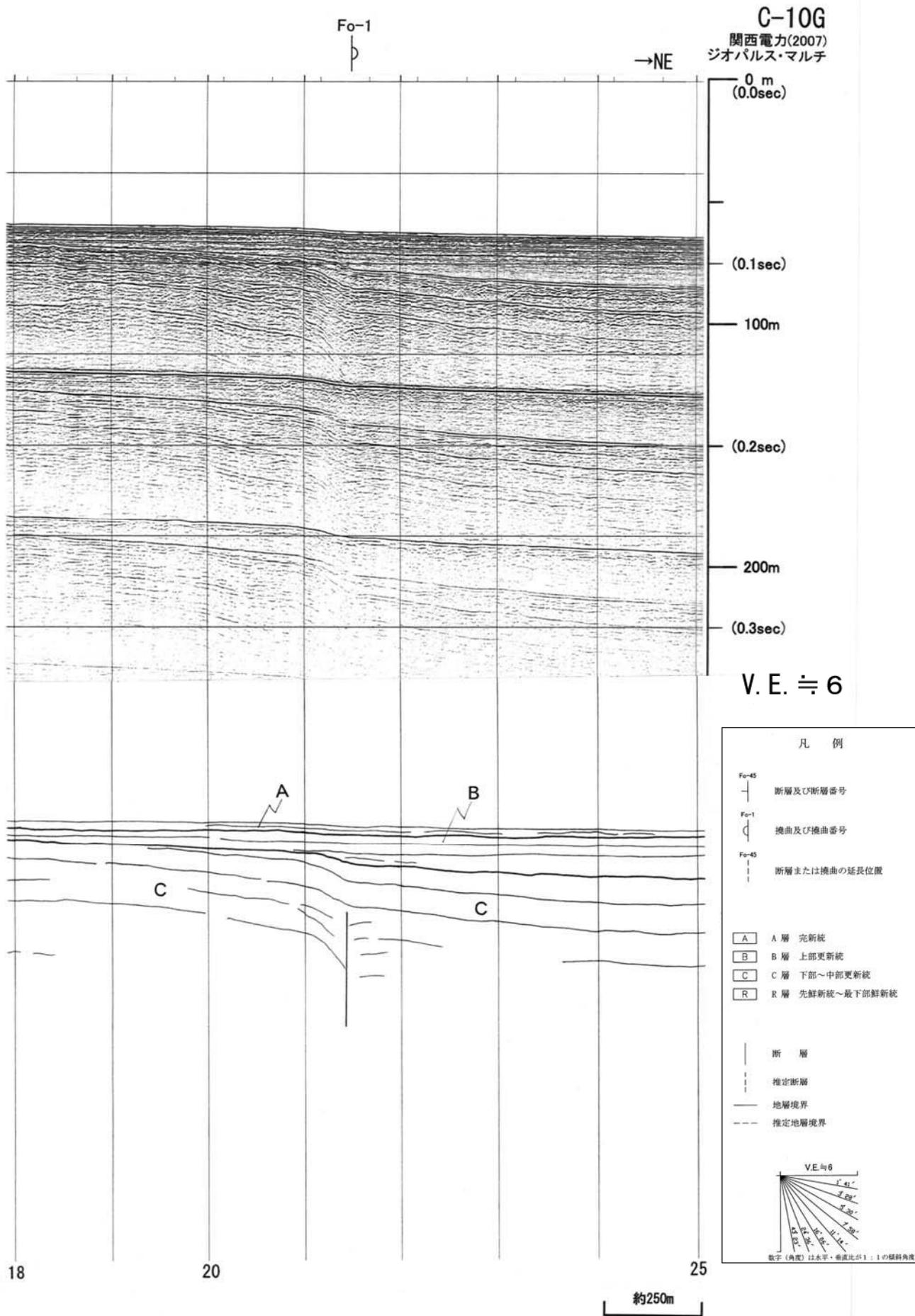
図3.2.162 大阪湾地域の電力網分布図



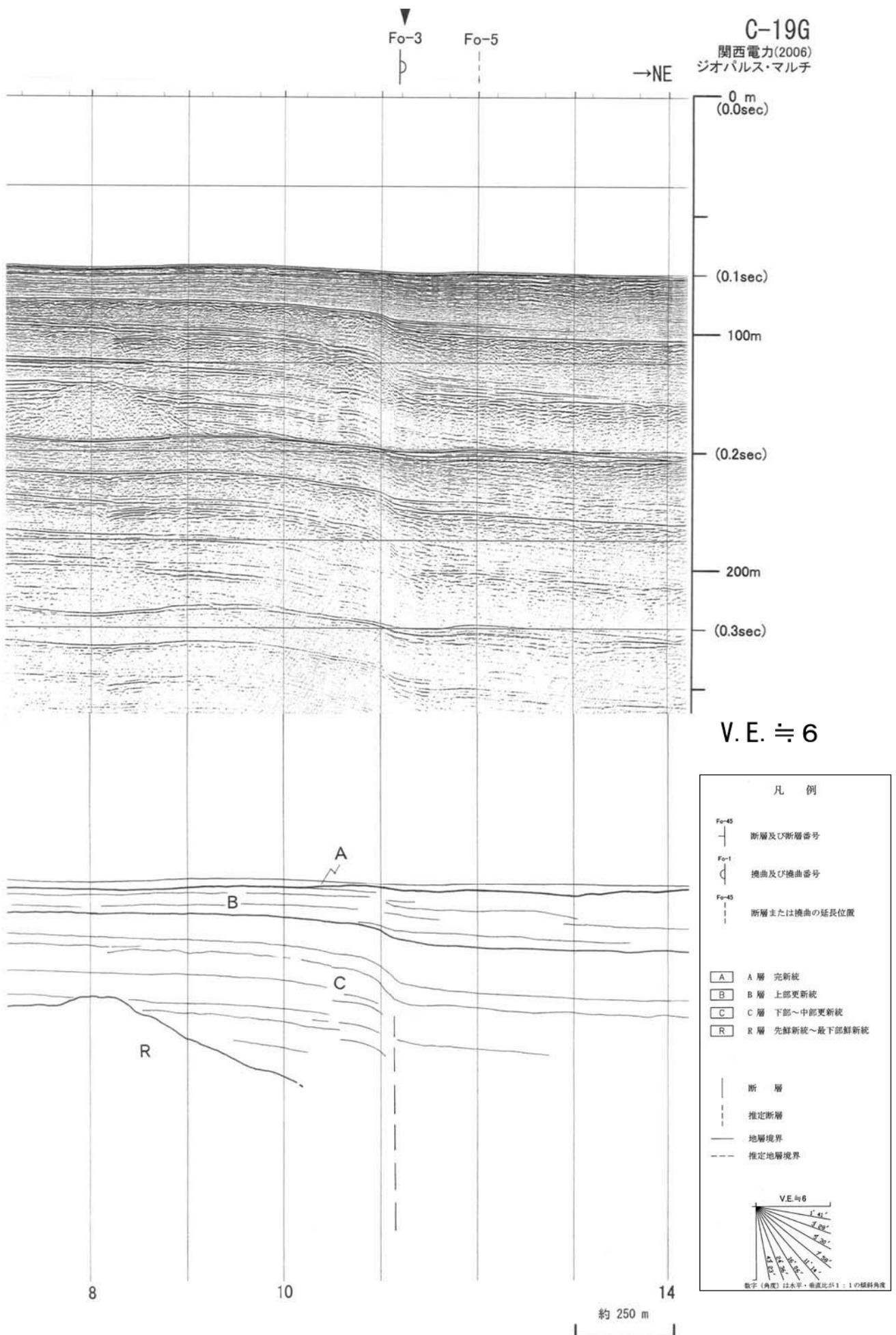
V.E. ≒ 6



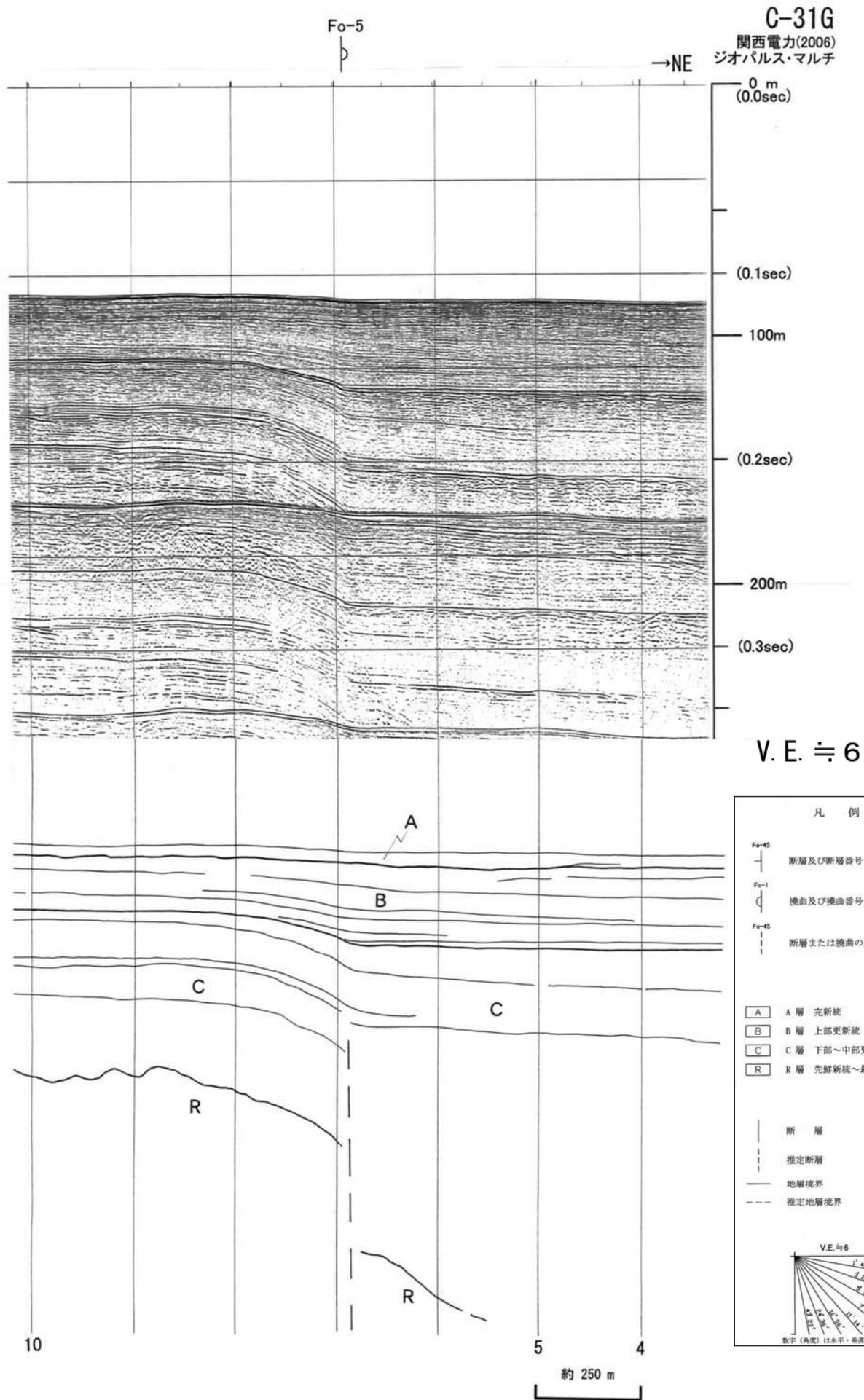
第 3. 2. 153 図(1) FO-A断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-2G)



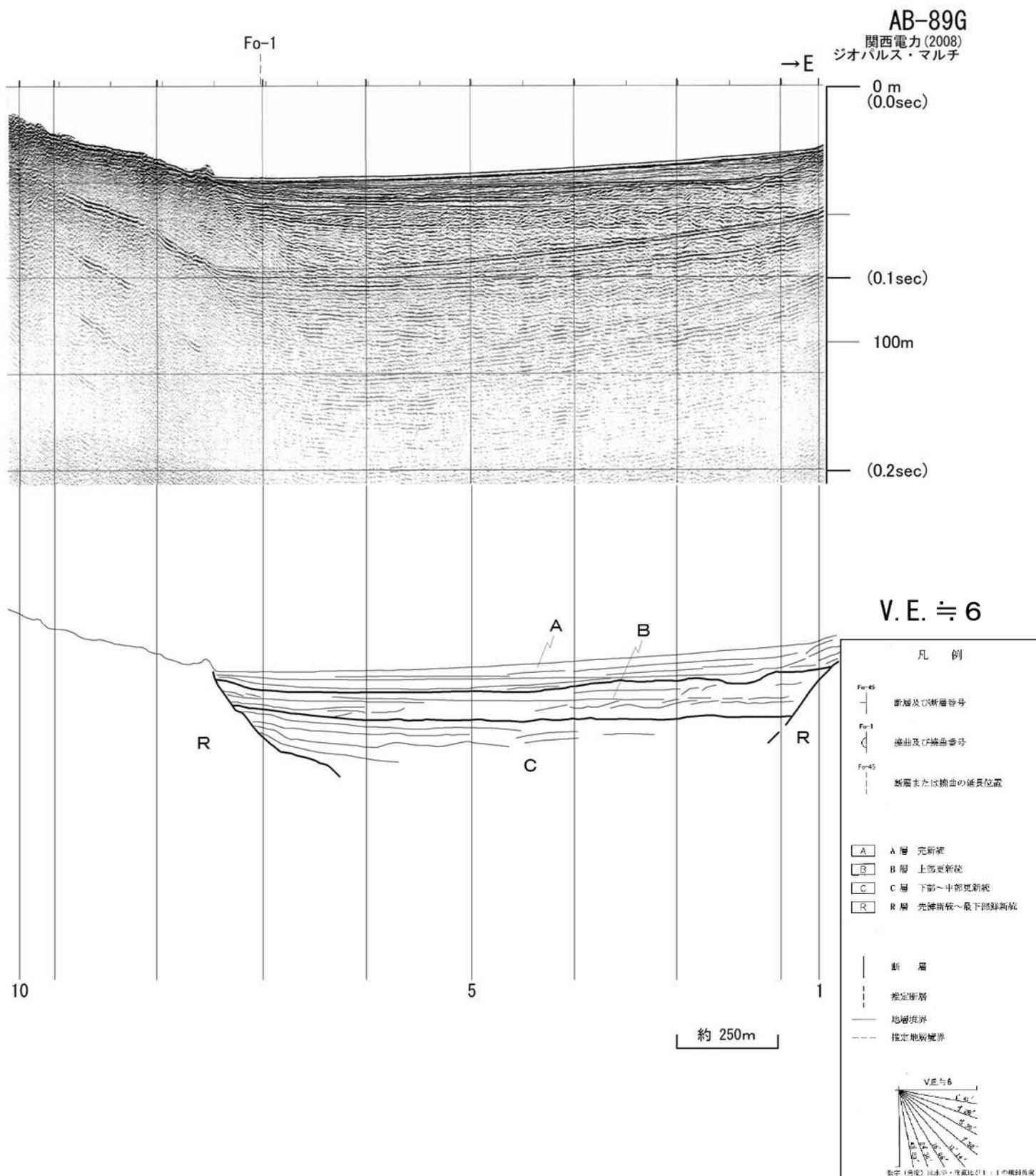
第 3. 2. 153 図(2) FO-A断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-10G)



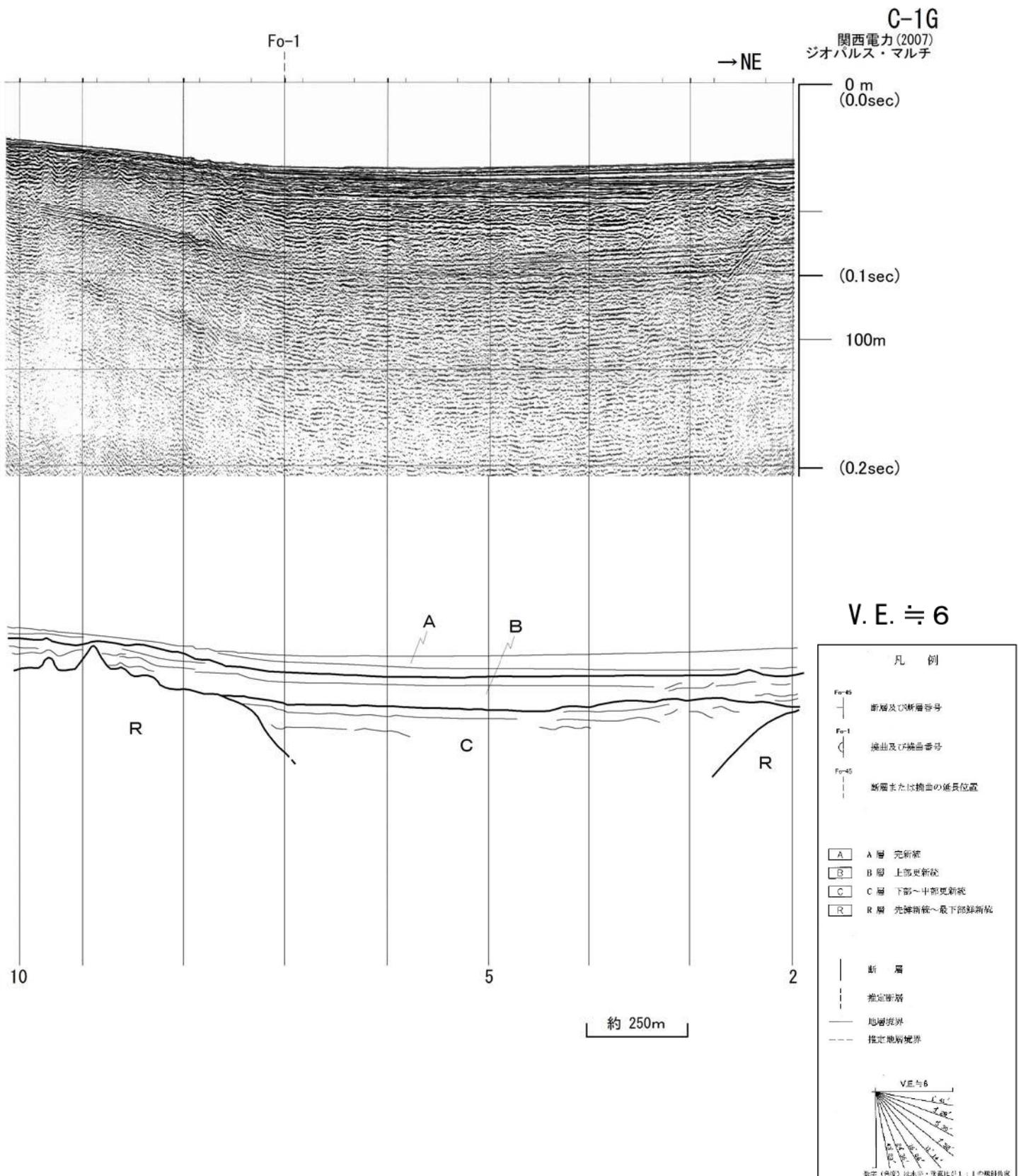
第 3.2.153 図(3) FO-A断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-19G)



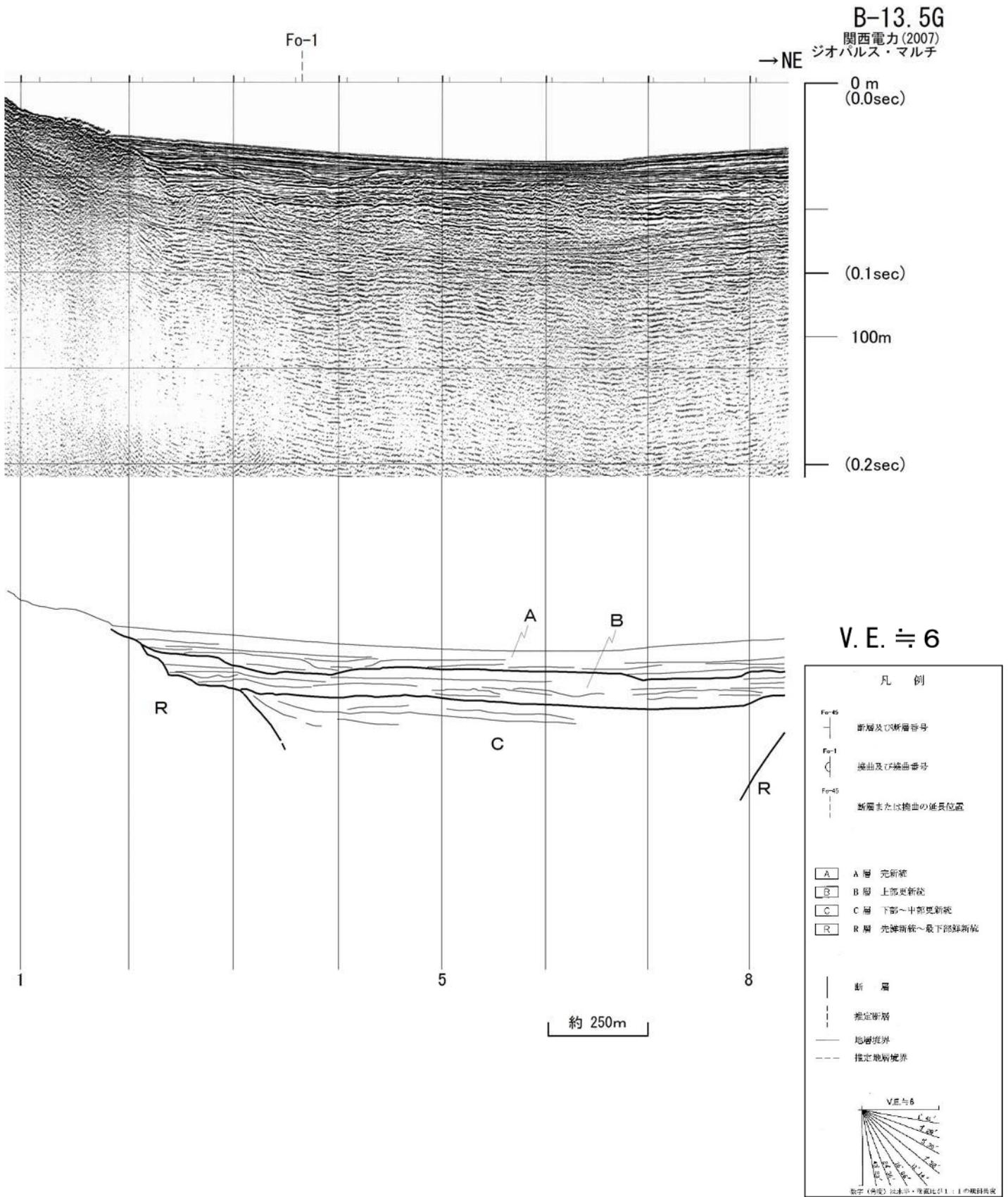
第 3. 2. 153 図(4) FO-A断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-31G)



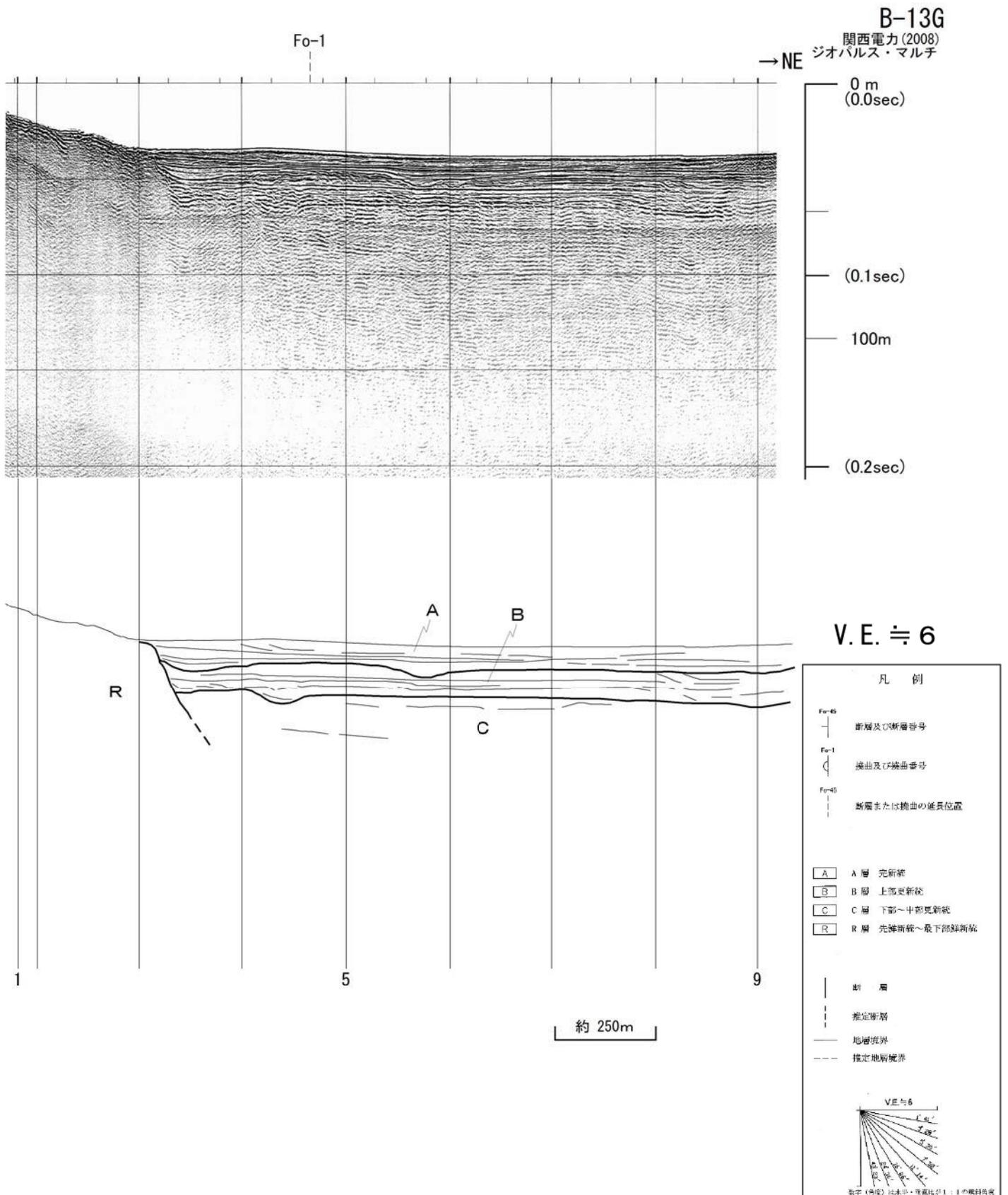
第 3. 2. 154 図(1) FO-A断層南方の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 AB-89G)



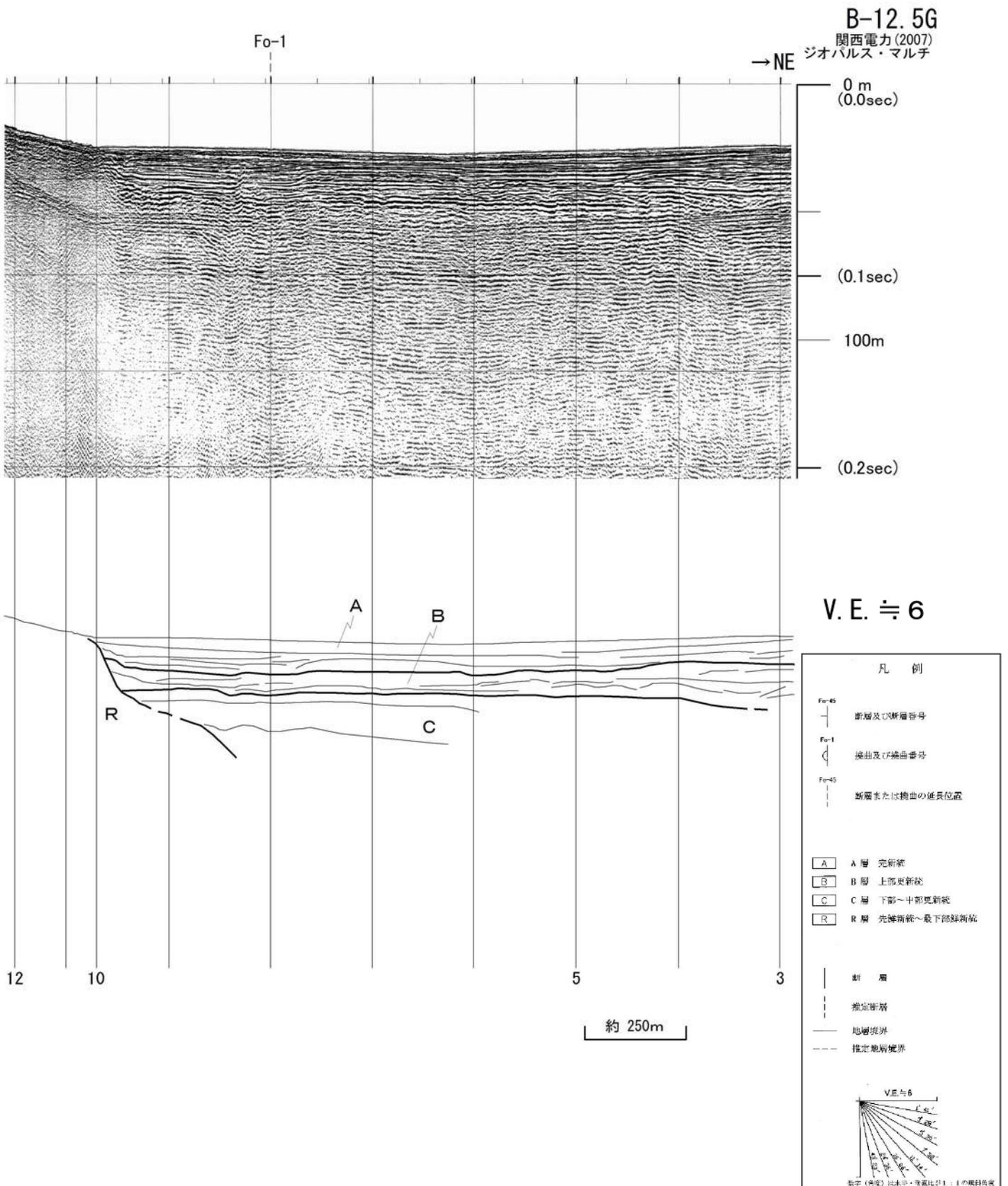
第 3. 2. 154 図(2) FO-A断層南方の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-1G)



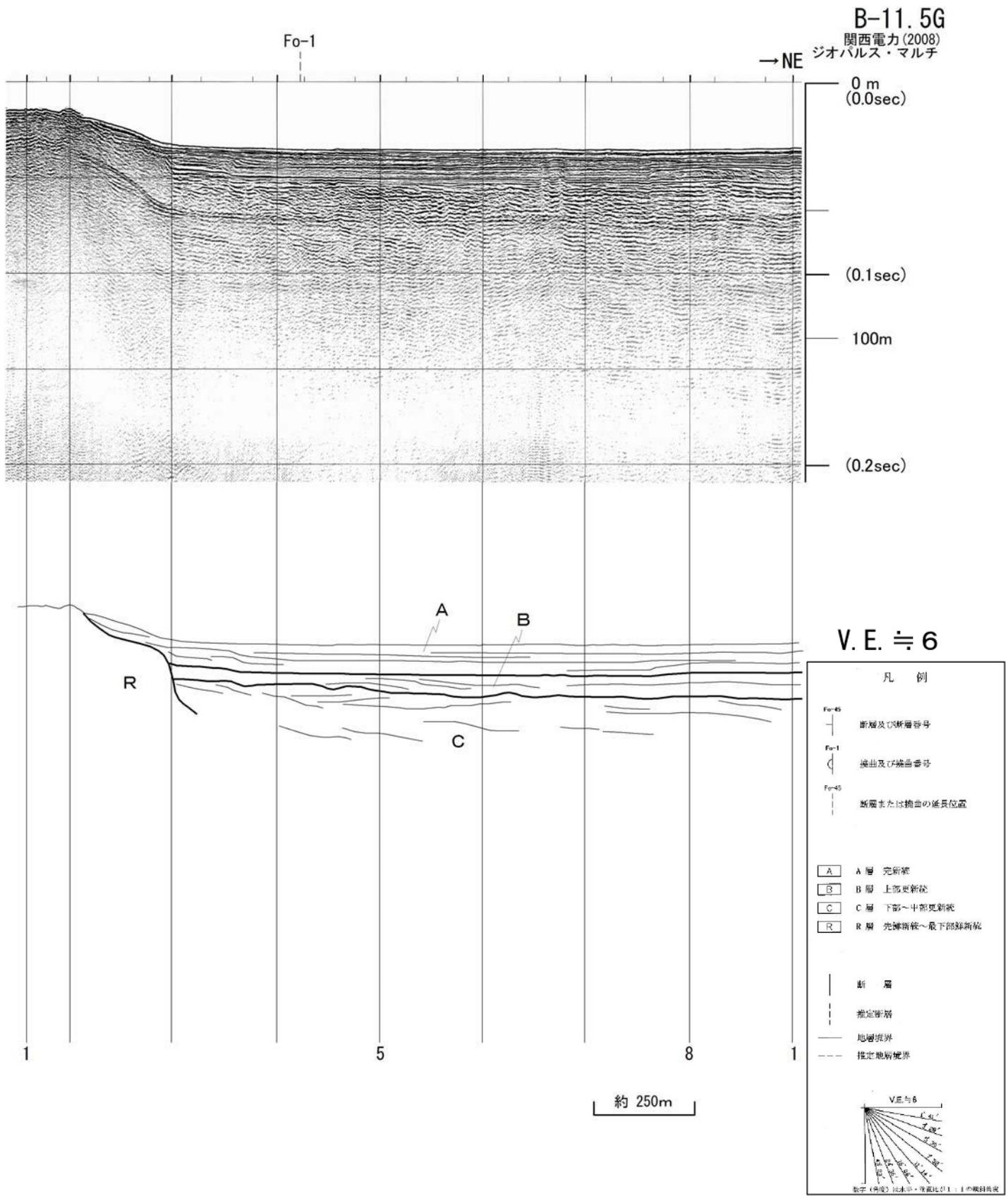
第 3.2.154 図(3) FO-A断層南方の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 B-13.5G)



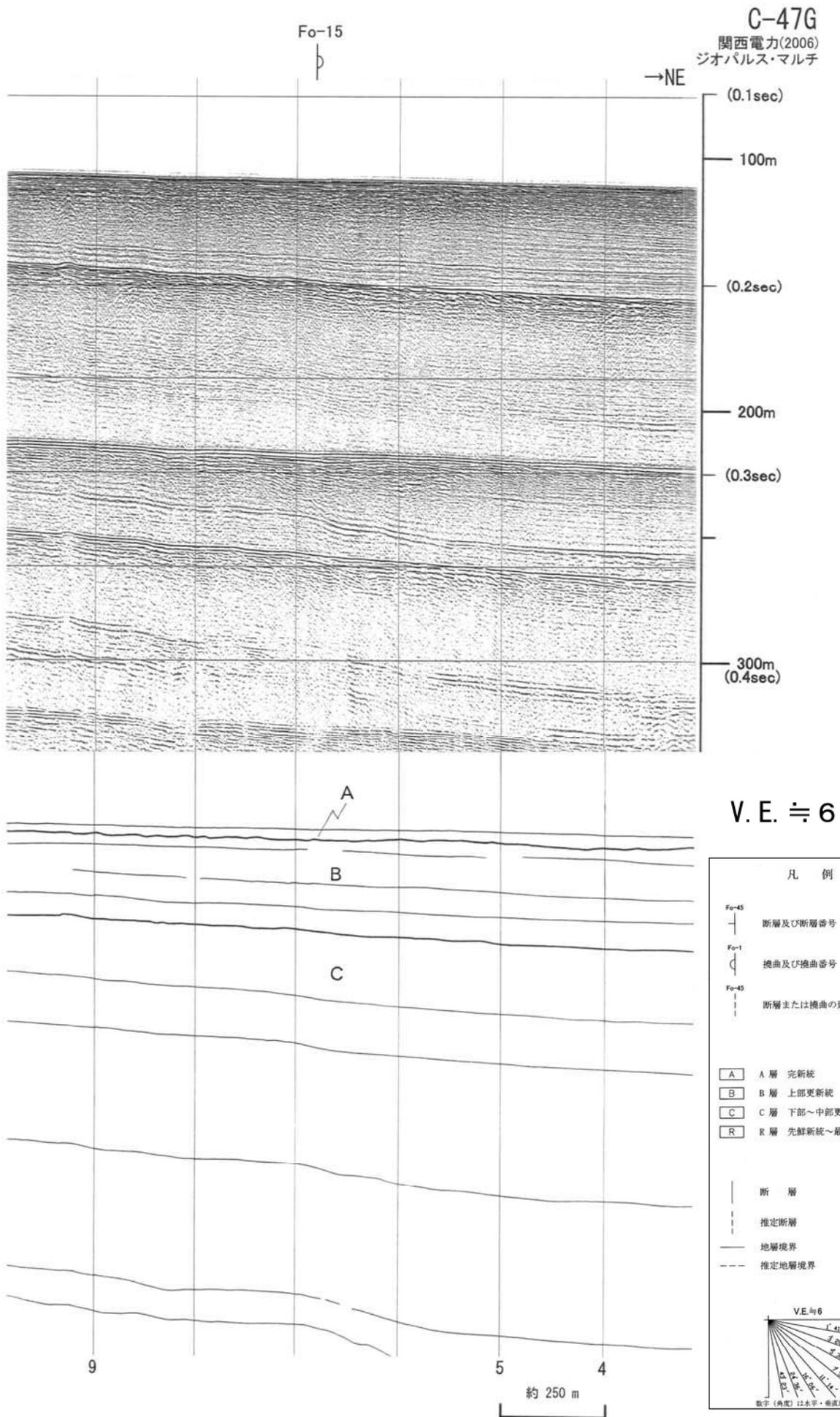
第 3. 2. 154 図(4) FO-A断層南方の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 B-13G)



第 3. 2. 154 図(5) FO-A断層南方の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 B-12.5G)

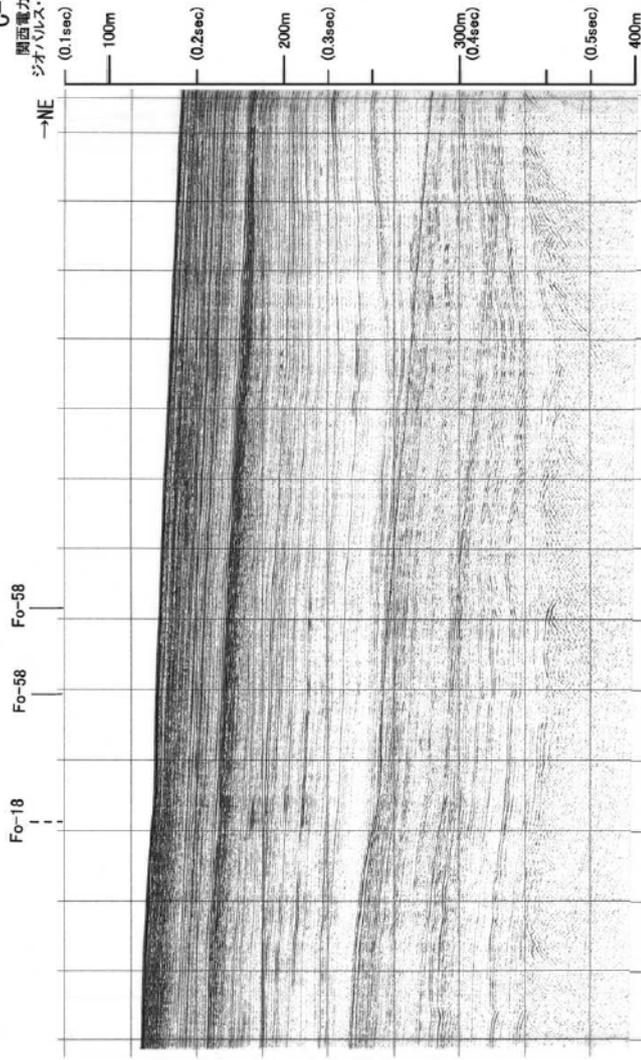


第 3. 2. 154 図(6) FO-A断層南方の海上音波探査記録及び地質断面図(測線B-11.5G)

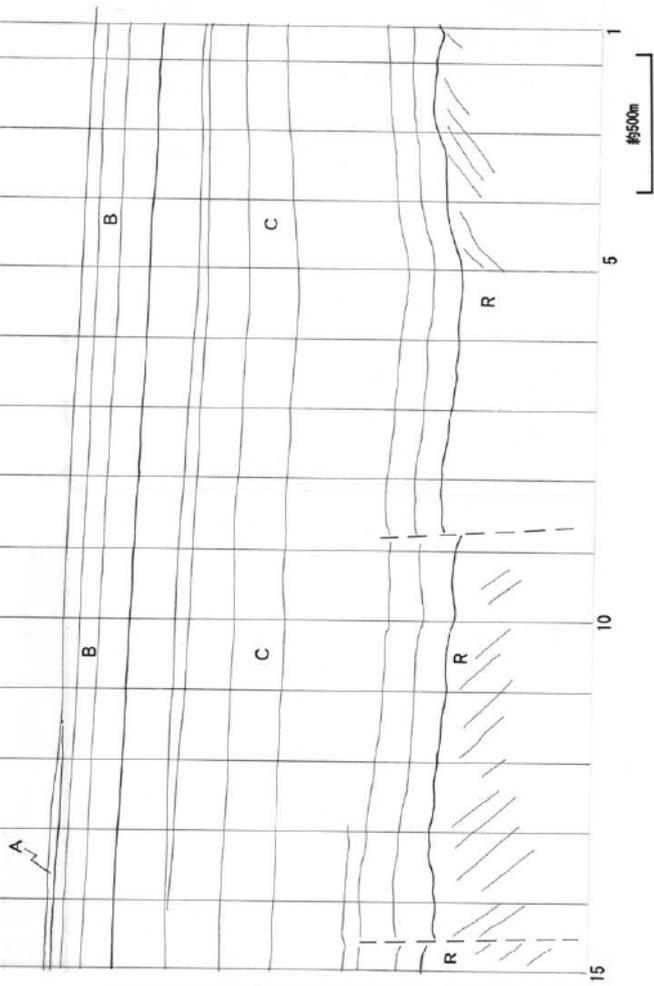


第 3.2.155 図(1) FO-B断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-47G)

C-58G
関西電力(2006)
ジオパリス・マル子



V.E. ≒ 6



凡例

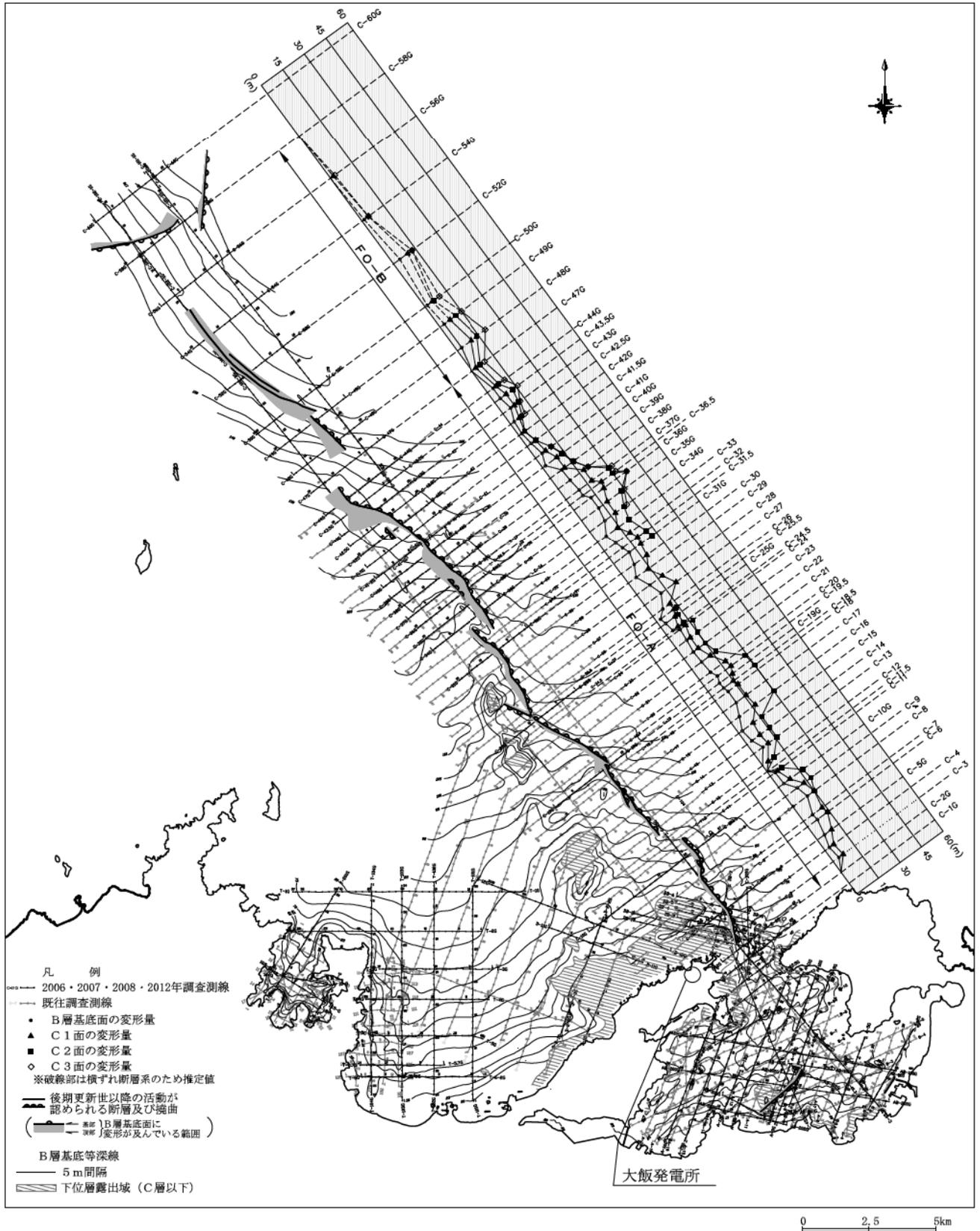
断面及び階層番号
 断面及び階層番号
 断面及び階層の延長距離

A層 泥岩
 B層 上部泥岩
 C層 下部-中部泥岩
 R層 粘板岩-最下部泥岩

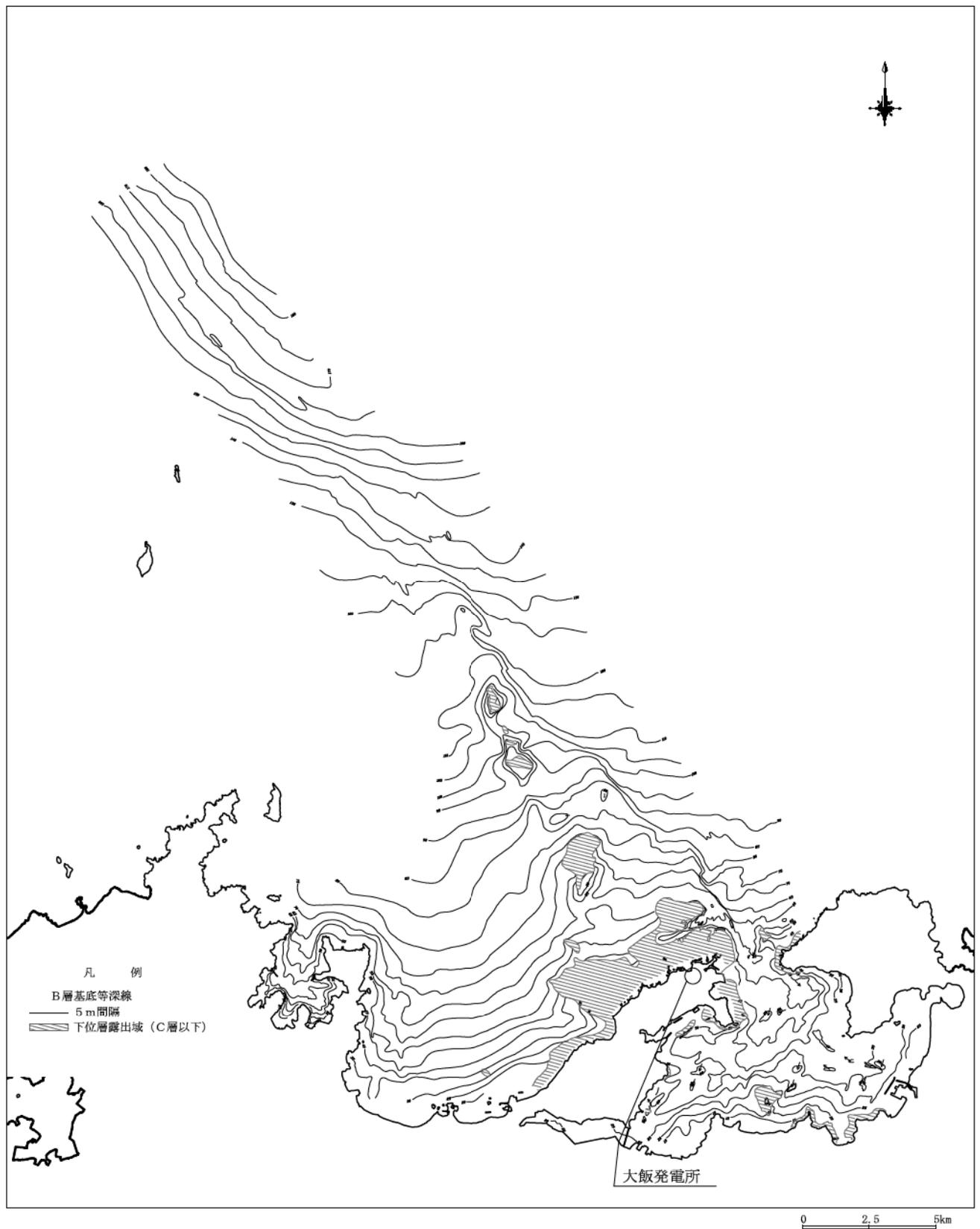
階層
 階層境界
 階層境界
 階層境界

V.E. ≒ 6
 北北東 北東 東 南東 南 南西 西 北西 北

第 3.2.155 図 (3) F O - B 断層の海上音波探査記録及び地質断面図 (測線 C-58G)



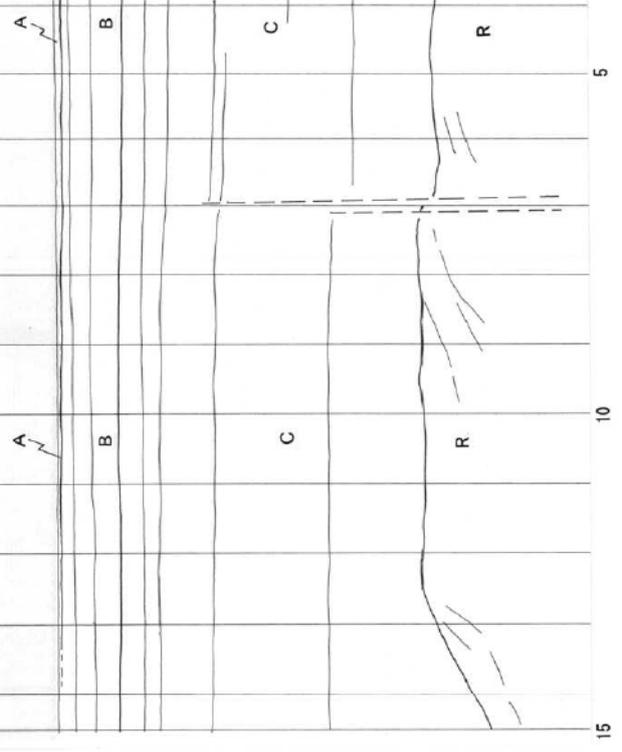
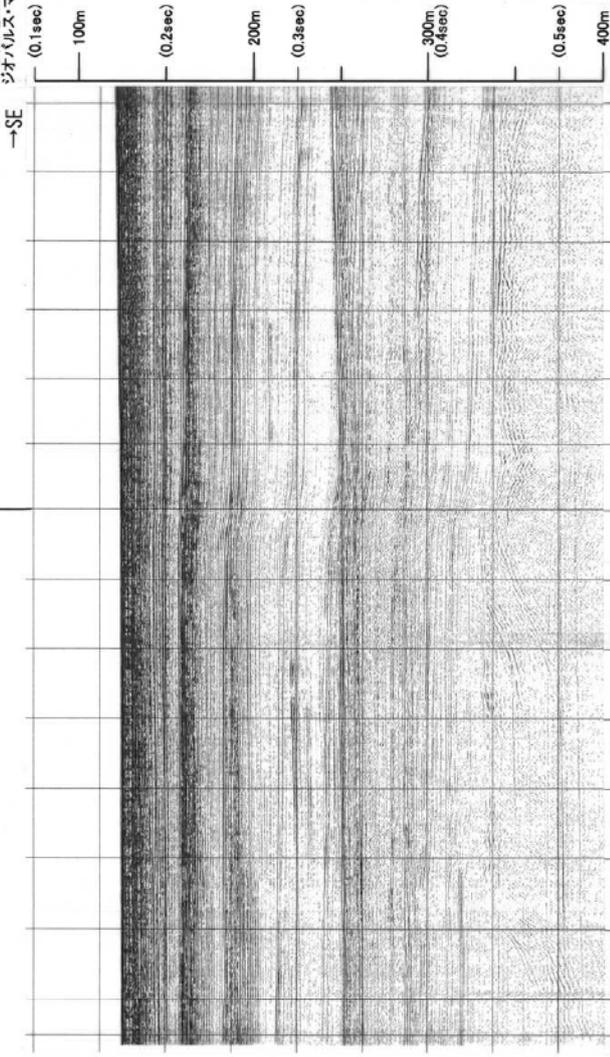
第3.2.156図 FO-A断層及びFO-B断層の鉛直変位量分布図



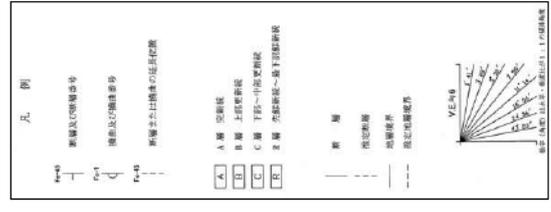
第3.2.157図 FO-A断層及びFO-B断層のB層基底等深線図

C-102-1G
 観測電圧(2000)
 ジョーリス・マルチ

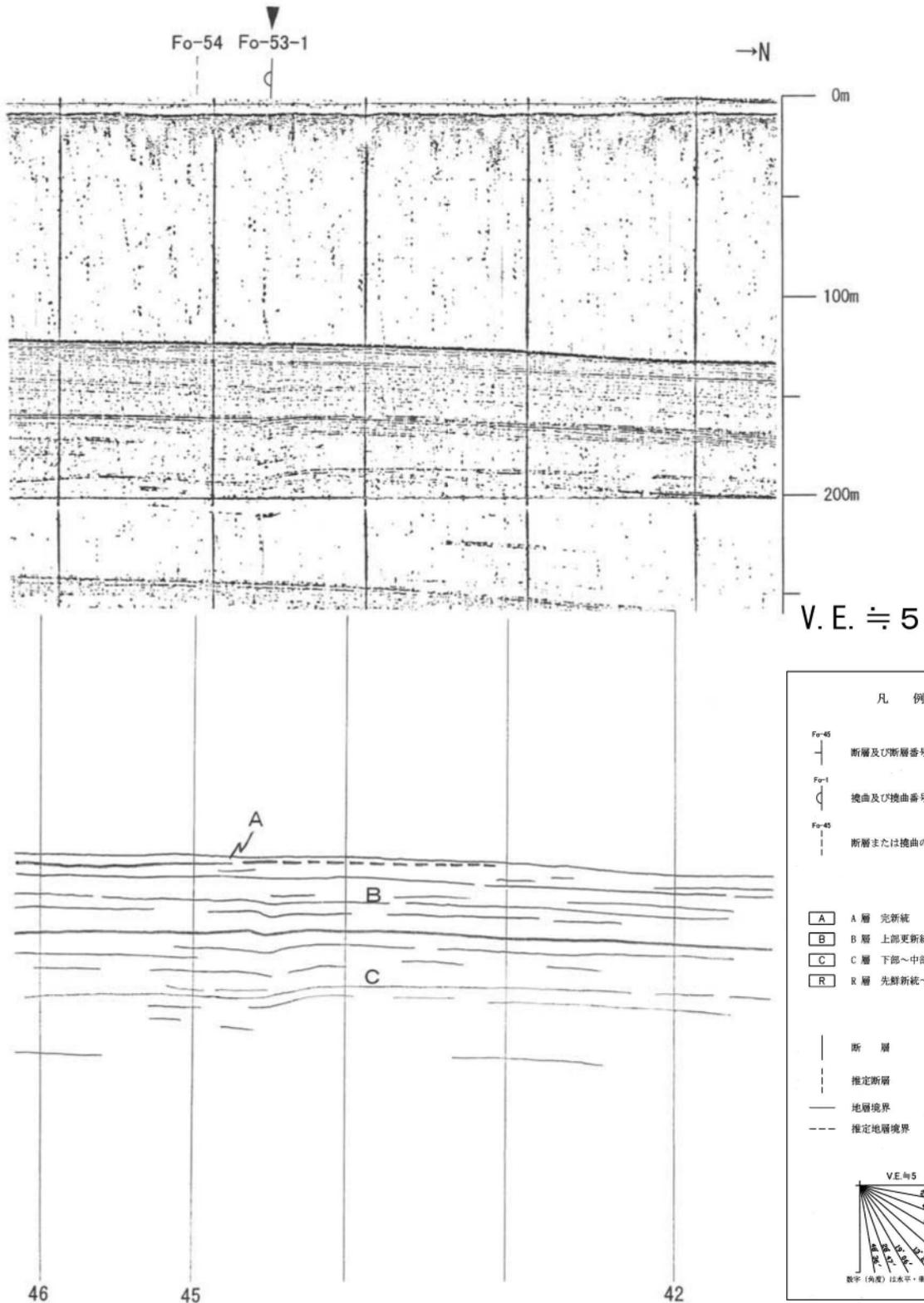
Fo-53-1



V.E. ≒ 6



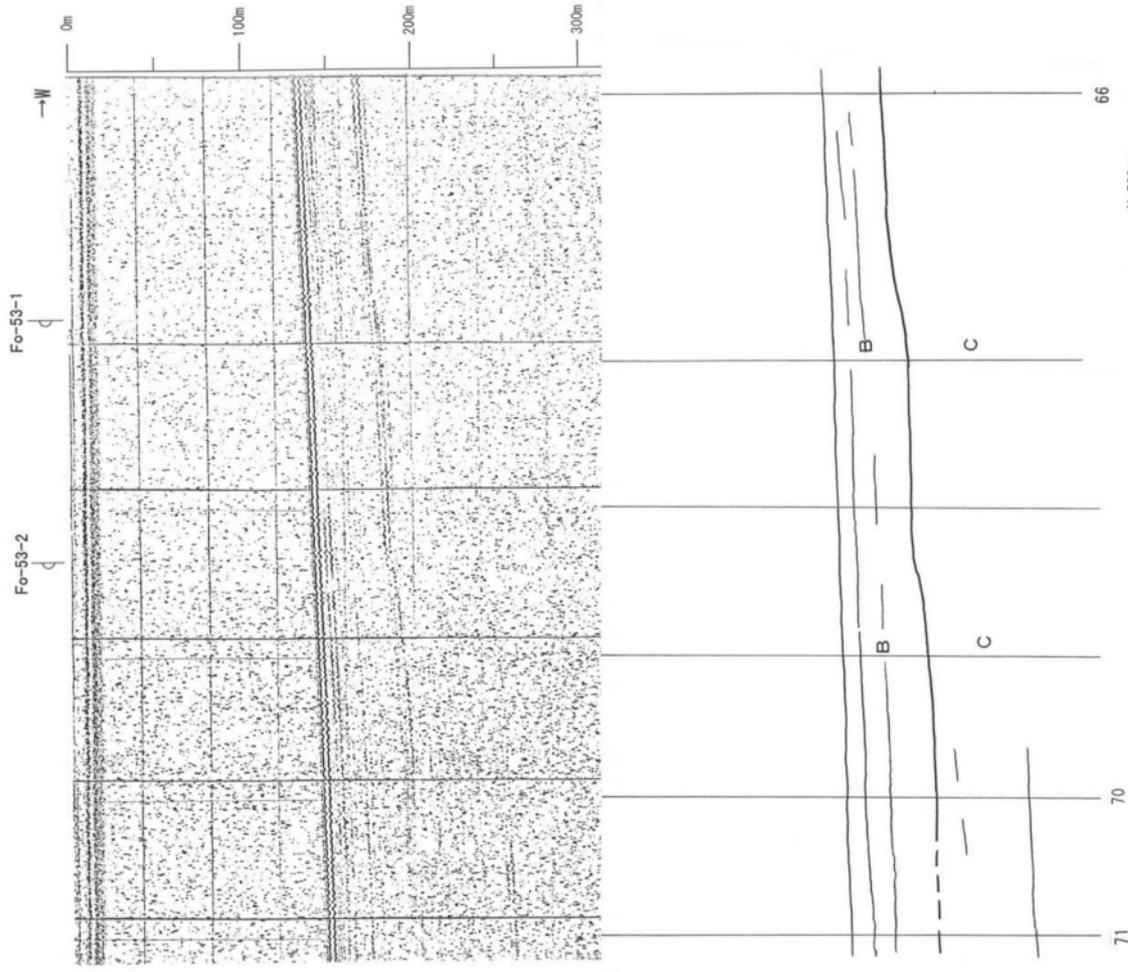
第 3.2.158 図(1) Fo-53-1 断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 C-102-1G)



※音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾西部」の原資料である。
地質断面図は、事業者の解釈によるものである。

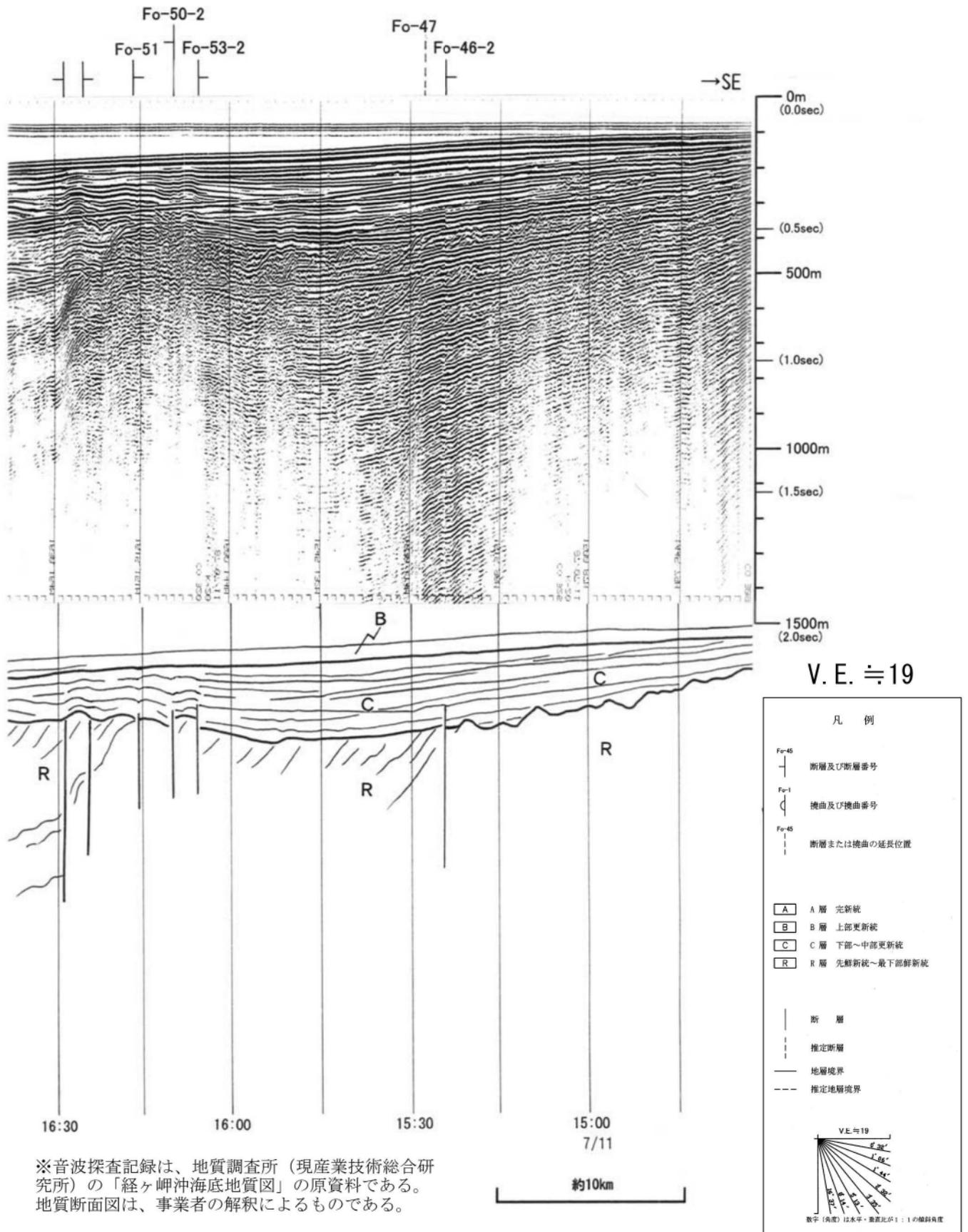
第 3. 2. 158 図(2) Fo-53-1 断層の海上音波探査記録及び地質断面図
(海上保安庁：測線 No. 39)

交A-1
 [海保「若狭海路部」V.P.カー]

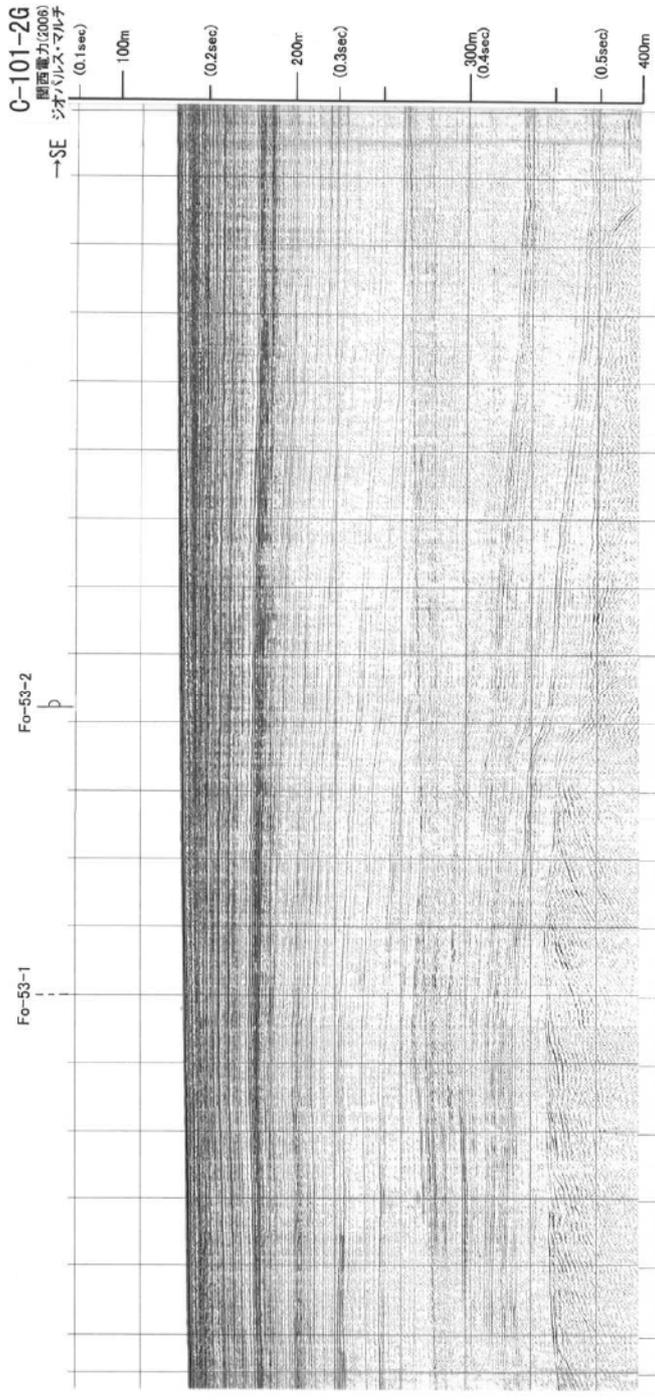


第 3. 2. 158 図 (3) Fo-53-1 断層の海上音波探査記録及び地質断面図
 (海上保安庁：測線交 A-1)

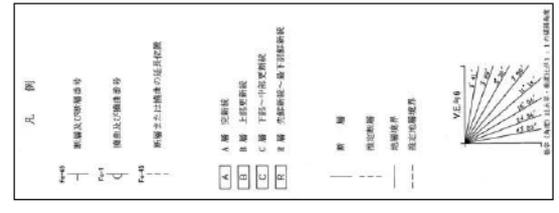
※音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾西部」の原資料である。
 地質断面図は、事業者の解釈によるものである。



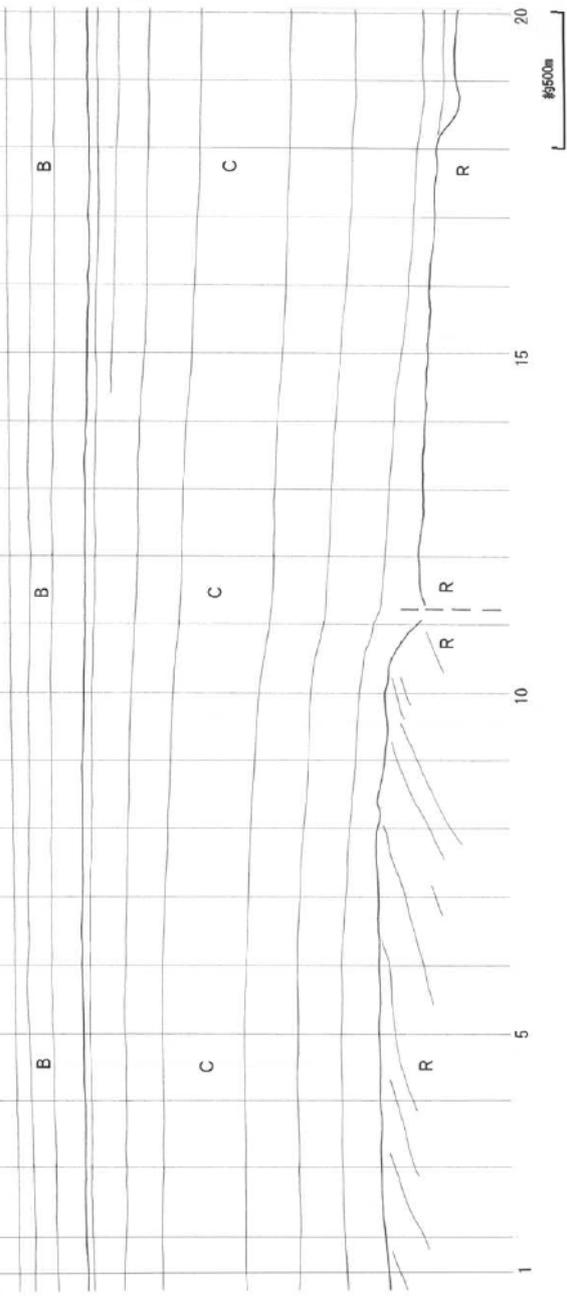
第 3. 2. 159 図(1) Fo-53-2 断層の海上音波探査記録及び地質断面図(旧地質調査所：K-20)



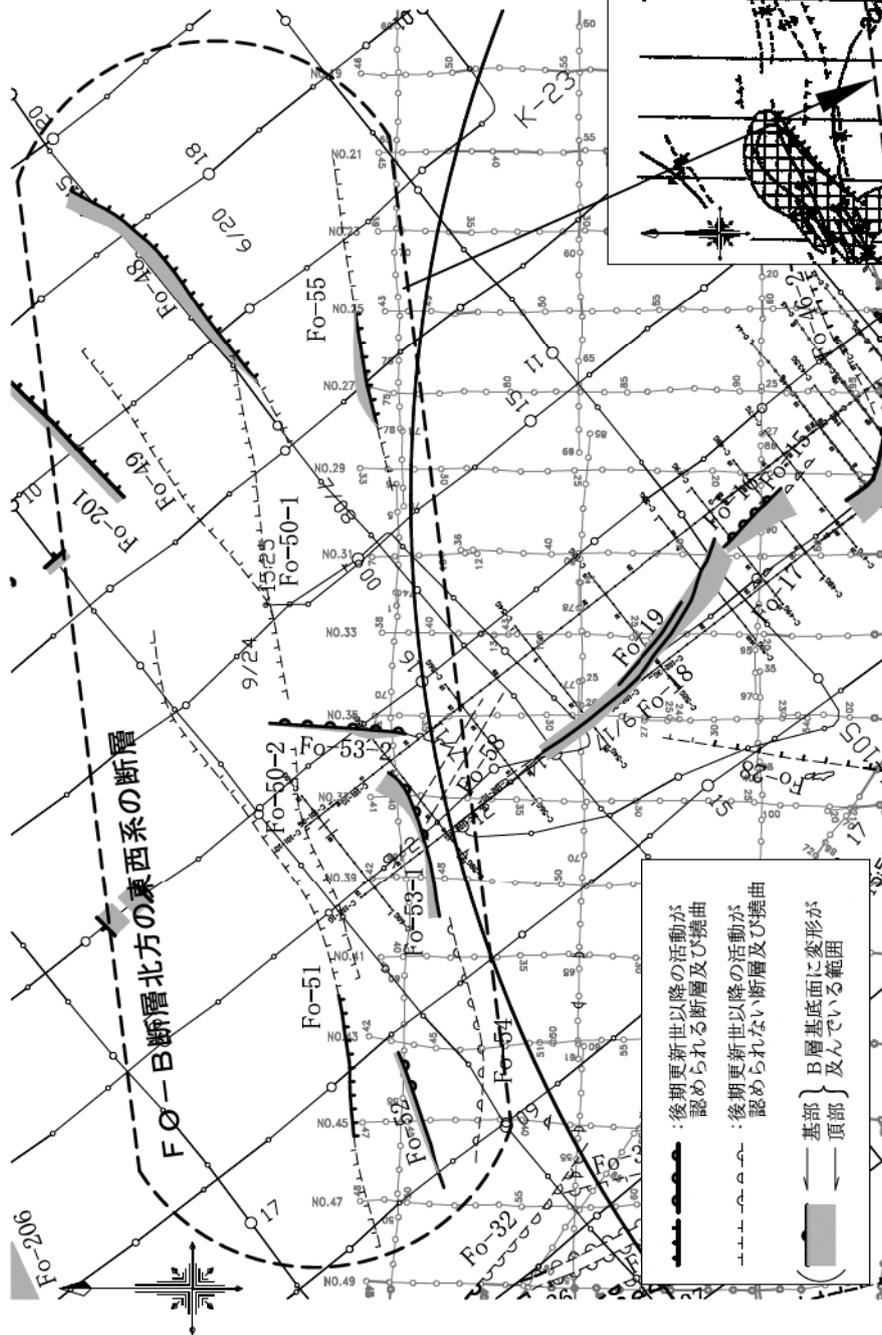
Fo-53-1
Fo-53-2
b



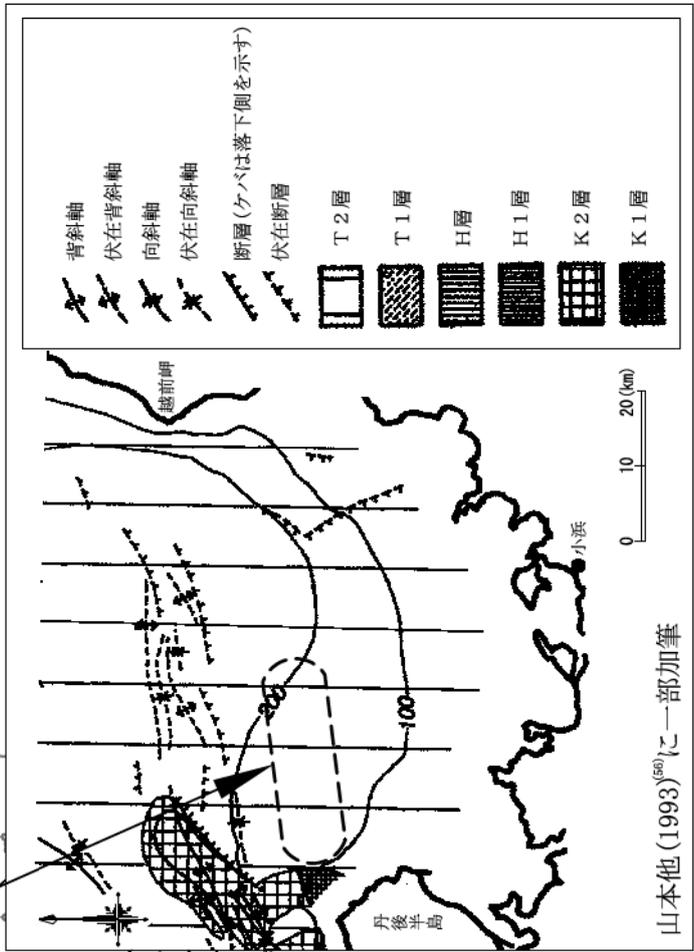
V.E. ≒ 6



第 3. 2. 159 図(2) Fo-53-2 断層の海上音波探査記録及び地質断面図
(測線 C-101-2G)



6-3-442

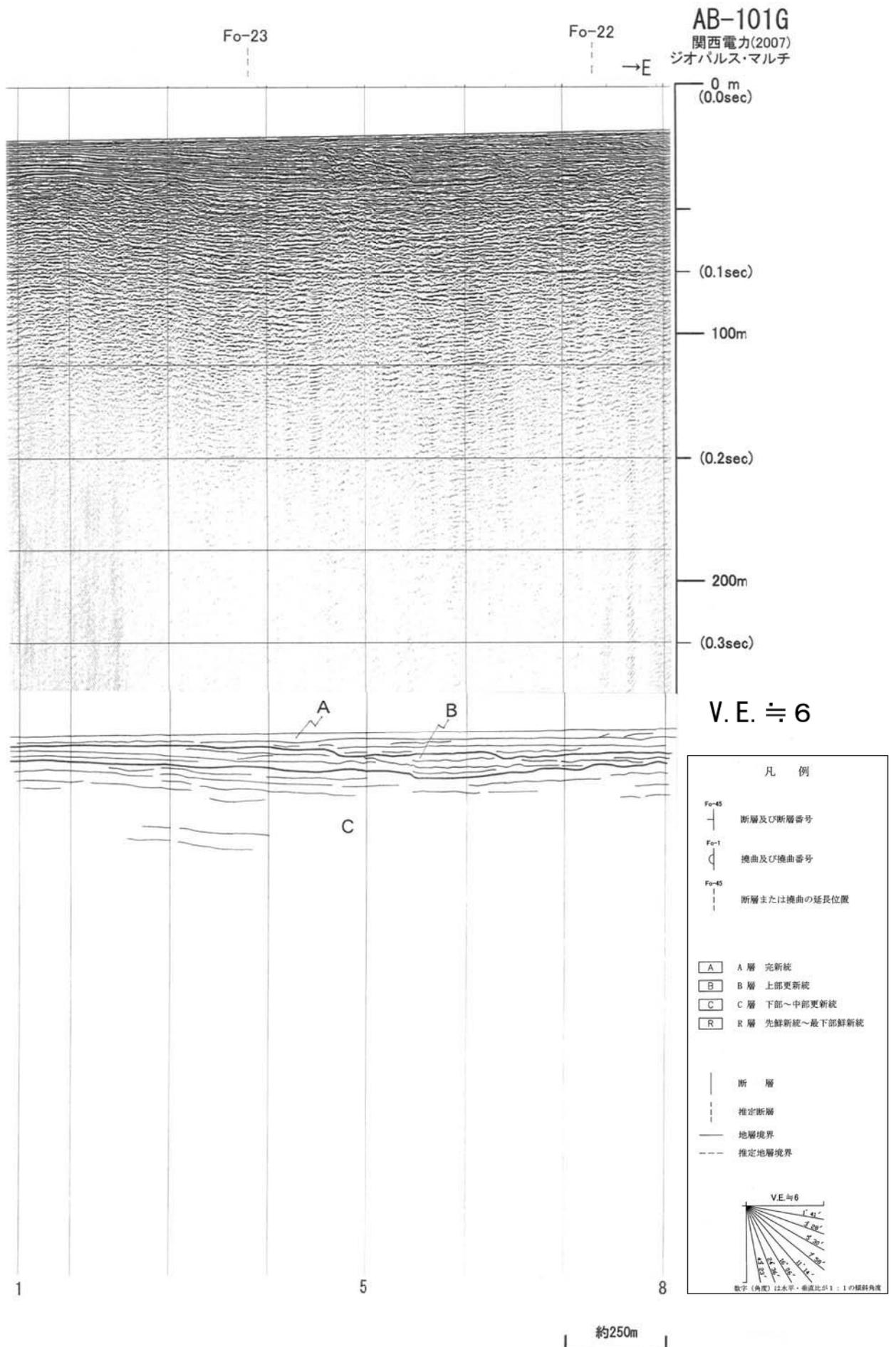


山本他(1993)⁽⁵⁶⁾に一部加筆

若狭湾沖には、山本他(1993)⁽⁵⁶⁾により東西方向の断層及び褶曲が示されており、FO-B断層北方の東西系の断層・褶曲に沿って分布している。

● : 後期更新世以降の活動が認められる断層及び褶曲
 ○ : 後期更新世以降の活動が認められない断層及び褶曲
 () : 基部 } B層基底面に變形が
 () : 頂部 } 及んでいる範囲

第3.2.161図 敷地周辺海域の東西方向の断層及び褶曲



第 3.2.162 図(1) FO-C断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 AB-101G)

AB-200G

関西電力(2007)
ジオパルス・マルチ

Fo-23

→E

0 m
(0.0sec)

(0.1sec)

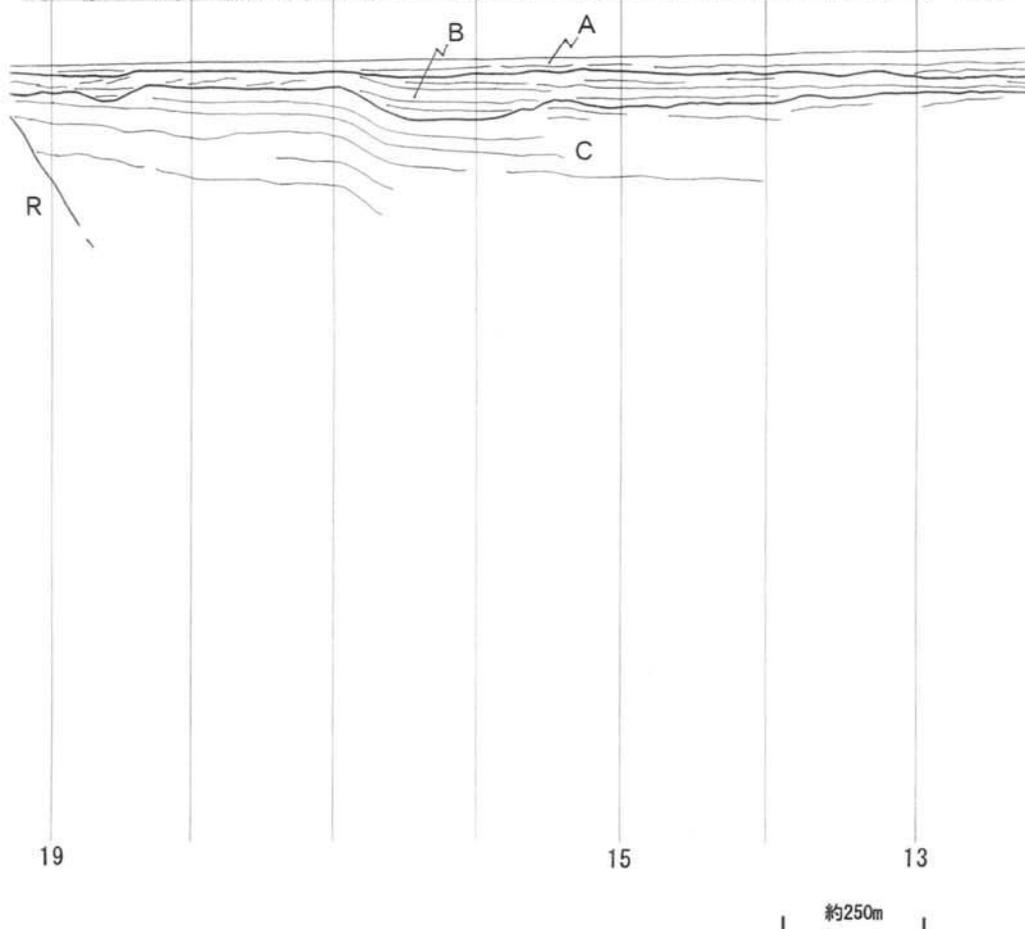
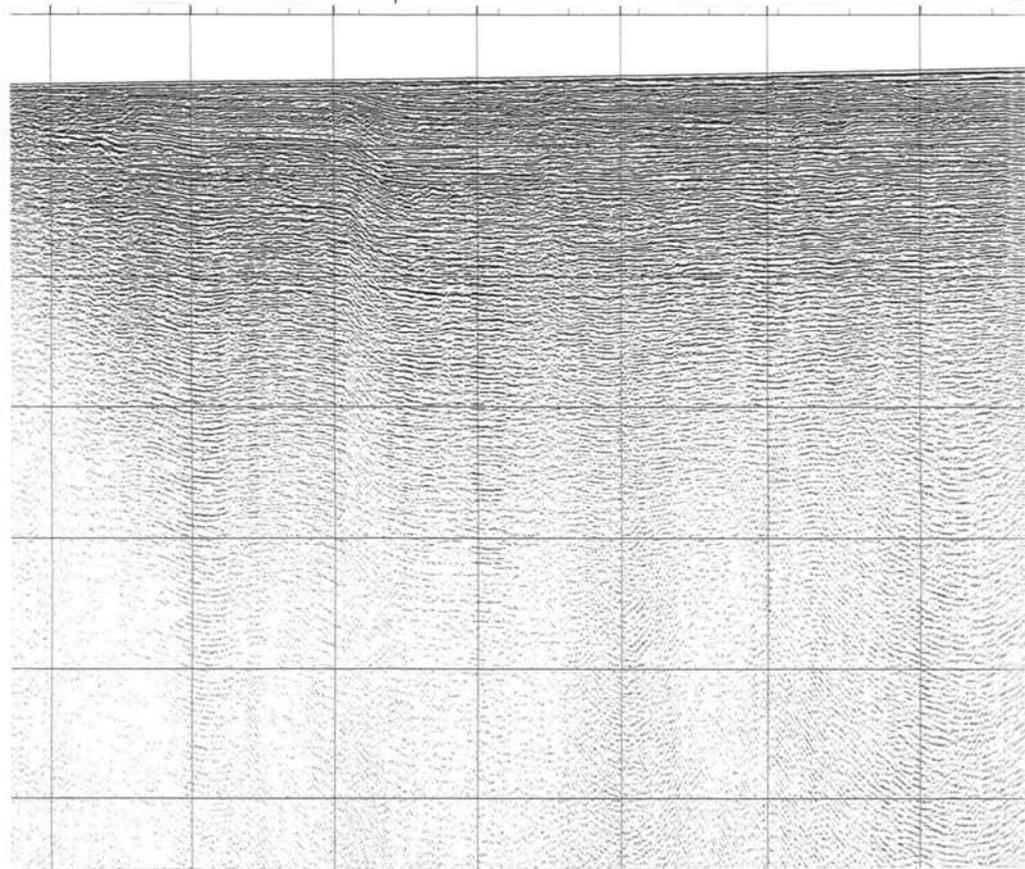
100m

(0.2sec)

200m

(0.3sec)

V. E. ÷ 6



凡例

Fo-45 断層及び断層番号
Fo-1 拗曲及び拗曲番号
Fo-45 断層または拗曲の延長位置

A A層 完新統
B B層 上部更新統
C C層 下部～中部更新統
R R層 先鮮新統～最下部鮮新統

断層
推定断層
地層境界
推定地層境界

V.E. ÷ 6
45°
30°
15°
0°
15°
30°
45°
数字(角度)は水平・垂直比が1:1の傾斜角度

第 3. 2. 162 図(3) FO-C断層の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 AB-200G)